

ひと さお い せき
一 竿 遺 跡 II

福岡県八女市大字立野字一竿・西田所在遺跡の第2次調査報告書

八女市文化財調査報告書 第59集



2000

八女市教育委員会

序

今回調査を実施した立野地区周辺は、八女西部地区の圃場整備事業が進み、これに伴って平成5年度から8年度まで埋蔵文化財の発掘調査を実施し、数多くの貴重な遺跡が発見されているところです。

当該地は平成8年度に八女市土地開発公社によって、住宅建設が計画され、平成8年10月から11月にかけて道路部分のみ発掘調査を実施いたしました。その後、土地利用の計画が変更され、福岡八女農業協同組合が大規模な選果場の建設を計画されましたので、建設前に発掘調査を実施したものです。発掘調査やその後の整理調査の実施にあたりまして、福岡八女農業協同組合をはじめ八女西部地区土地改良区に、終始御協力いただきました。心から感謝申し上げます。

平成12年3月31日

八女市教育委員会

教育長 樋口 欽一

例 言

- 1 本書は八女市教育委員会が、福岡八女農業協同組合の委託を受けて実施した福岡県八女市大字立野字一竿・字西田所在遺跡の第2次調査の報告書である。

なお、当初調査は試掘調査の結果から一竿地区を計画していたが、保存される事となったため調査の中心は、北側の西田地区になった。しかし当初より遺跡名を一竿遺跡としていたため遺跡の名称はそのまま用いた。

- 2 一竿遺跡第2次調査の発掘調査は八女市教育委員会が実施した。
- 3 遺構の実測は参加者で行い、現場写真は赤崎と山本が撮影した。
- 4 出土した遺物については、岩戸山歴史資料館で整理を行い、保管している。
- 5 本書の執筆、編集は赤崎が行った。

本文目次

1 はじめに.....	1
2 位置と環境.....	4
3 発掘調査の概要.....	7
4 まとめ.....	93

1. はじめに

一竿遺跡は福岡県八女市大字立野字一竿・字西田に所在する。

調査の発端は、福岡八女農業協同組合が、立野集落の西側に広がる水田32,000㎡の内、約10,000㎡に選果場を建設する計画がなされたことによる。一竿遺跡は平成8年10月から11月にかけて八女市土地開発公社の開発計画によって、遺跡の一部約2,000㎡の調査（一次調査）を実施し、弥生時代の堅穴住居1軒、掘立柱建物2棟、土壊60基、溝4条が発見され、土器や石器などの遺物が多く出土している。

今回の発掘調査は選果場建設によって遺跡が掘削される約9,000㎡の範囲の調査を実施する事とし、平成10年3月10日付けで発掘届が提出された。発掘届の提出により平成10年4月20日付けで「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」及び平成11年度で実施する「埋蔵文化財発掘整理調査及び報告書作成委託契約」の協定書を締結した。途中、建物の設計変更により、平成10年10月30日付けで「埋蔵文化財発掘調査委託契約書の変更契約書」を締結して、調査面積と調査期間の変更を行った。

発掘調査は平成10年5月14日に開始、折りからの梅雨時期と、低湿地という悪条件での調査となり、冠水を繰り返しながら、平成10年11月13日調査は終了した。

発掘調査に引き続いて平成11年度には、平成11年8月31日付けで「埋蔵文化財整理作業委託契約書」を締結し、整理と報告書作成を実施した。

調査関係者は次のとおりである。

平成10年度 福岡八女農業協同組合

代表理事組合長 吉田 政人

八女市教育委員会

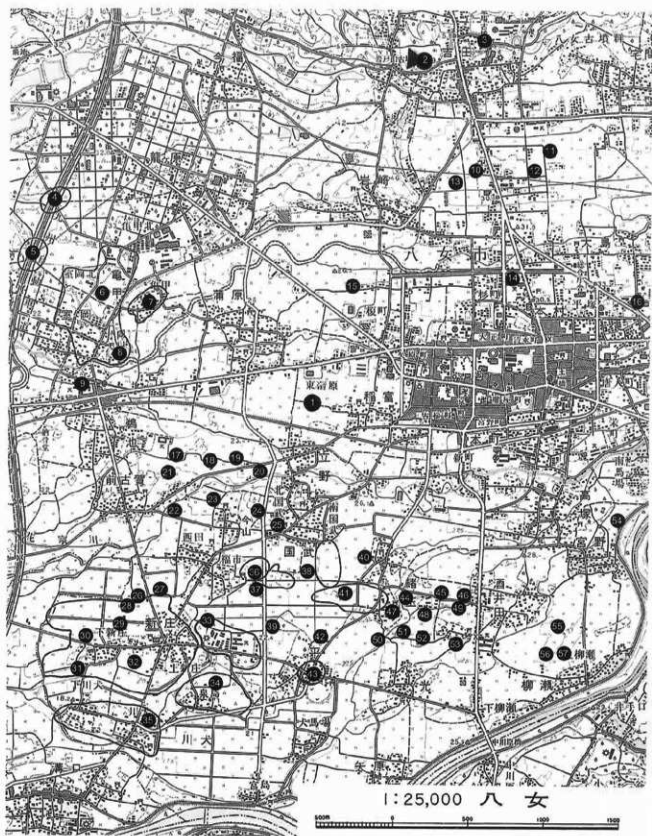
教育長	樋口 欽一
教育部長	石松 憲治
生涯学習課長	大隈 繁敏
生涯学習課長補佐	下川 文比古
兼社会教育係主任	
文化財係長	赤崎 敏男（調査担当）
文化財係	中川寿賀子
文化財係	大塚 恵治
文化財係	森田 尚美
文化財係嘱託	山田 朗子

平成11年度 福岡八女農業協同組合

代表理事組合長 吉田 政人

八女市教育委員会

教育長	樋口 欽一
教育部長	石松 憲治
生涯学習課長	大隈 繁敏
生涯学習課長補佐	志岐 徳
文化財係長	赤崎 敏男（調査担当）



- 1.一竿遺跡 1次・2次 2.岩戸山古墳 3.乗場古墳 4.四中ノ沢遺跡 5.坊野遺跡 6.室岡遺跡群 7.亀ノ甲東原遺跡 8.岡山公園古墳
9.岡山小学校校庭遺跡 10.美男川遺跡 11.道手遺跡 12.長峰地区条里 13.下古田地区条里 14.福岡中学校校庭遺跡 15.惣津遺跡
16.万上田遺跡 17.樋の口遺跡 2次 18.土穴遺跡 19.立野・六反田遺跡 20.立野・大坪遺跡 21.五反田遺跡 22.川原遺跡
23.井手口遺跡 24.篠原遺跡 25.松本遺跡 26.水田遺跡 27.西田前遺跡 28.吉書田遺跡 29.宮ノ後遺跡 30.ヒヤケ遺跡
31.六反田遺跡 32.新任遺跡群 33.大石本遺跡 34.泉島遺跡 35.川大遺跡 36.前田・大坪遺跡 37.中里遺跡 38.国武遺跡
39.上島町遺跡 40.特田遺跡 41.打越遺跡 42.新替遺跡 43.平遺跡 44.野田遺跡 45.深田遺跡 46.京田遺跡 (2次)
47.將玉天満宮遺跡 48.二反田遺跡 49.京田遺跡 50.宿町遺跡 51.水洗遺跡 52.宮ノ前遺跡 53.石町遺跡 54.鍛冶屋遺跡
55.烏田遺跡・長田遺跡 56.アモメ遺跡 57.茶ノ木ノ本遺跡

第1図 一竿遺跡 2次調査 周辺の遺跡分布図 (1/25,000)



第2図 一年道跡2次調査 位置図 (1/5,000)

文化財係	中川寿賀子
文化財係	大塚 恵治
文化財係	森田 尚美
文化財係嘱託	山田 朗子
調査補助員	山本 義輝

2. 位置と環境

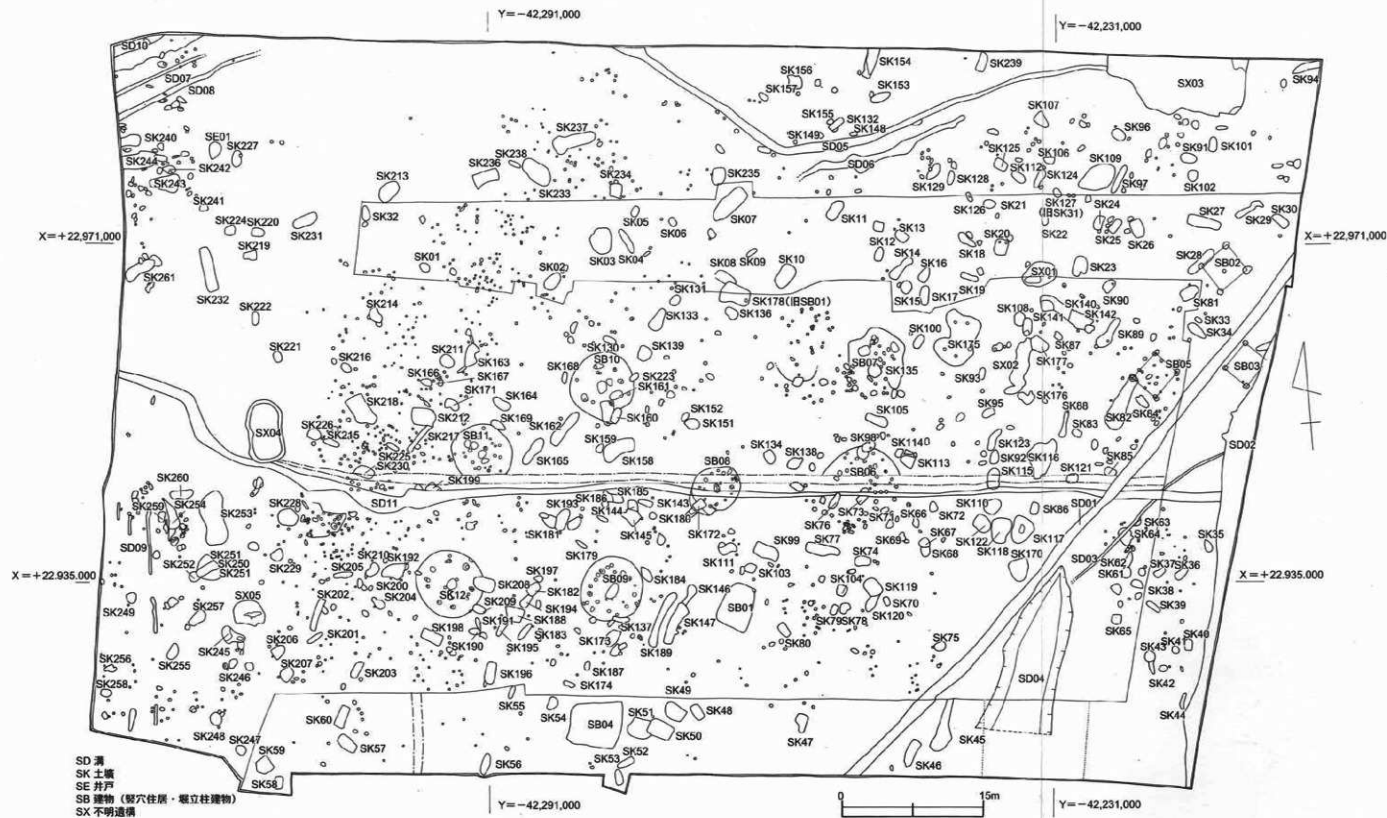
一竿遺跡は、矢部川によって形成された沖積平野上にある。付近の標高は24m前後で、東から西と、北から南に向かってわずかずつであるが標高を下げる。北側1.2kmには八女丘陵から派生した、平野部との比高差が10m前後の台地が広がっており、台地の縁辺には弥生時代の遺跡が集中して発見されている。

遺跡の西側一帯は八女西部地区圃場整備事業、南側一帯は八女南部地区圃場整備事業が実施され、これに伴って多くの埋蔵文化財の発掘調査を実施している。

周辺の弥生時代の遺跡として西側台地上に「亀ノ甲式土器」の標識遺跡である室岡遺跡群（山ノ上遺跡、北小路遺跡）、西中ノ沢遺跡、坊野遺跡、南西500mの所には圃場整備事業に伴う発掘調査によって発見された立野・大坪遺跡があり、弥生時代前期の二重環濠、貯蔵穴、堅穴住居、掘立柱建物などが発見された。南側700mには篠原遺跡、松本遺跡があり、平成元年から2年にかけての調査で弥生時代を中心として円形堅穴住居を含む堅穴住居62軒、掘立柱建物30棟、円形周溝遺構が発見されている。南側1.5kmには平成2年度に調査が実施された宿町遺跡があり、今回の発見された遺跡とはほぼ同時期の堅穴住居約40軒、土壇多数と環濠が、南東2kmのアモメ遺跡からも平成4年度の調査でほぼ同時期の遺物が多く発見されている。



第3図 一竿遺跡2次調査区 発掘前風景



第4図 一平遺跡1次・2次調査 遺構配置図 [1/400]

3. 発掘調査の概要

第二次調査は平成8年度に実施した一次調査部分約2000㎡を含めた約10000㎡の調査を実施した。発掘調査によって発見された遺構は弥生時代の円形の堅穴住居7軒、掘立柱建物1棟、土壇200基、楕円形周溝遺構1基、溝1条、歴史時代の井戸1基、溝7条が発見されており、一次、二次調査と併せると堅穴住居9軒（一次調査の1号堅穴住居は土壇に変更）、掘立柱建物3棟、土壇260基と溝11条が発見されている。出土品も一次調査部分を含めて多量の弥生式土器と石器が出土しており、この周辺一帯に大規模な集落が展開していたものと考えられる。

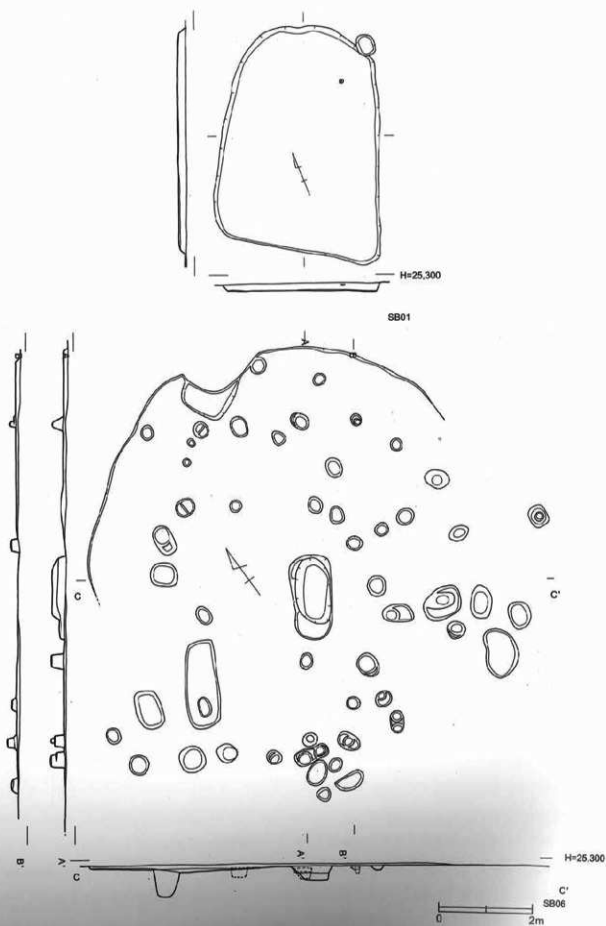
1. 弥生時代の遺構と遺物

堅穴住居 (SB)

堅穴住居は調査区のほぼ中央に集中して円形の堅穴住居7軒、南側から一次調査分を含め長方形の堅穴住居2軒を検出した。いずれも削平によって大きく削られていたが、床面部分を中心に残っていた。

SB01 (第5図) 1次調査でSB01としていた堅穴が2次調査の結果、土壇(SK178)となったため、新たに1次調査で発見されていたSB04の北東15mにある堅穴住居をSB01とした。堅穴住居はほぼ南北棟で南北の長さ4.73m、東西の長さ3.32mのやや歪な隅丸長方形の堅穴住居である。全体に床面まで壁は15cm程度残っている。床面はほぼ平坦で、柱穴は検出できなかった。出土遺物として、土製紡錘車があり、土器はわずかにしか出土しなかったが、黒曜石の剥片と、サヌカイトの原石と剥片が出土している。

SB06 (第5図) 堅穴住居の北西側半分はすでに削平されておりわずかな痕跡しか残っていないが、長径が10.13m、短径9.50mのわずかに楕円形の堅穴住居である。北側では床面まで壁は5cm程度しか残っていない。床面はほぼ平坦で、柱穴は良く残っている。主軸となる柱穴は北東から南西方向にあり、床面の中央部にはSK73によって切られた長さ約1m、幅0.75mの楕円形の浅いビットがあり、また、壁面から約1.5m前後の部分にビットが規則的に円状に周っている。出土遺物として土器はわずかに甕形土器しか出土しなかったが、土製品として土製紡錘車が出土、石器として石鏃(黒曜石)1、石鏃(サヌカイト)3、石錐(サヌカイト)1、石核(サヌカイト)が出土している。



第5圖 壁穴住居 (SB01、06) [1/80]

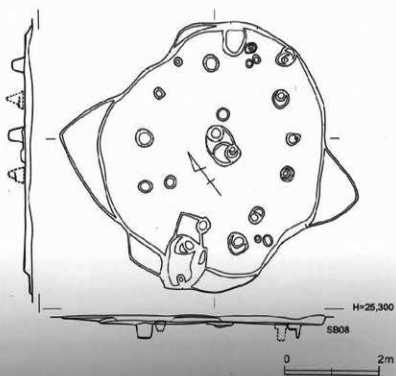
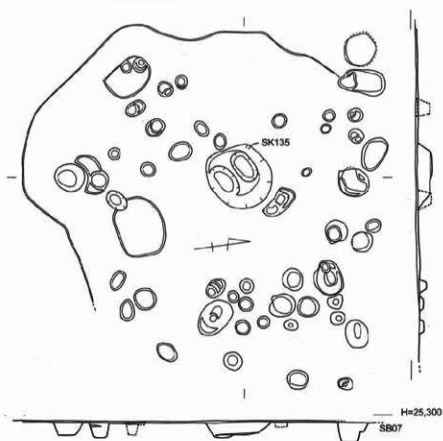
SB07 (第6図) 壁はほとんど残っていなかったが、わずかな痕跡より、直径が約7m前後の円形の竪穴住居と思われる。床面はほぼ平坦で、柱穴は良く残っており、主軸となる柱穴は南北方向にある。また、壁面から1.1m-1.5m前後の部分にピットが規則的に円状に周っている。出土遺物として、土器はわずかにしか出土しなかったが、石器として石鏃(サヌカイト)2、黒曜石片と、サヌカイト片が出土しており、柱穴内からサヌカイトの原石が出土している。

SB08 (第6図) 長径が4.80m、短径が5.30mのわずかに楕円形の竪穴住居である。南側をSK172によって切られている。全体に床面まで壁は15cm前後残っていた。床面はほぼ平坦で、柱穴は良く残っており、主軸となる柱穴は北東から南西方向にあり、中央には長径が0.86m、短径0.57m、深さ10cm前後の楕円形の浅いピットがあり、壁面から0.7m-1.0m前後の部分にも規則的にピットが円状に周っている。出土遺物として、土器は壺形土器がわずかに出土し、石器として黒曜石片が出土している。

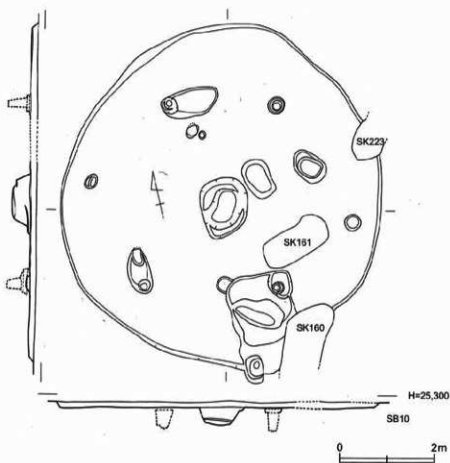
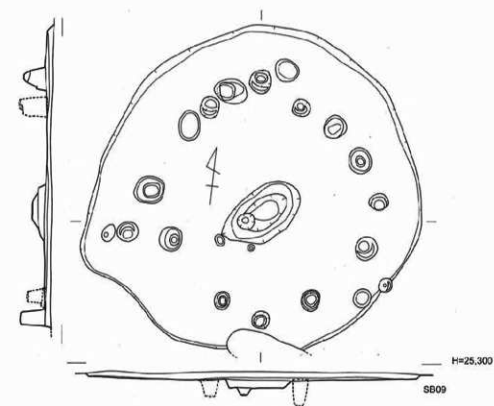
SB09 (第7図) 直径が6.80mの円形の竪穴住居である。南側をSK137によって切られている。床面はほぼ平坦で、全体に床面まで壁は10cm程度残っていた。柱穴は良く残っており、主軸となる柱穴はほぼ南北方向にある。中央には長径が1.75m、短径1.05m、深さ25cmのやや大型で楕円形のピットがあるが焼土もなく炉とは考え難い。壁面から0.9m-1.4m前後の部分にも規則的にピットが円状に周っている。出土遺物として、土器として壺形土器と甕形土器、甕形土器(丹塗)がやや多く出土、石器として磨石、石鏃(黒曜石)1、姫島産黒曜石片が出土している。

SB10 (第7図) 竪穴住居の全体が良く残っており長径が7.15m、短径6.75mのわずかに楕円形の竪穴住居である。南側をSK160、SK161に、東側をSK223によって切られているが、床面まで壁は10cm程度残っている。床面はほぼ平坦で、柱穴は良く残っており、主柱穴は楕円形に掘込まれた4本柱で、主軸はほぼ南北方向となる。壁面を周るピットはない。中央には長径が1.30m、短径1.00m、深さ35cmのやや大型で円形のピットがある。内部から炭化物等は出ていない。出土遺物として土器は壺形土器蓋と甕形土器が多く出土し、石器として石皿、磨石、有柄磨製石鏃(粘板岩)、石鏃(サヌカイト)2、黒曜石片が出土している。

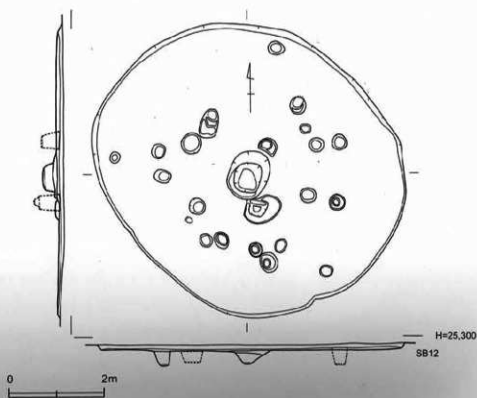
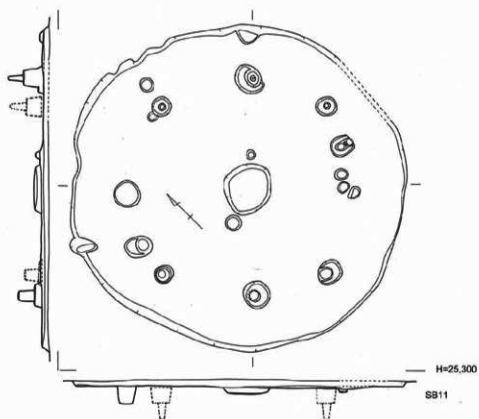
SB11 (第8図) 長径が6.57m、短径5.63mのわずかに楕円形の竪穴住居である。床面まで壁は10cmから15cm程度残っている。床面はほぼ平坦で、柱穴は良く残っており主軸となる柱穴はほぼ東西方向にある。中央には長径が1.02m、短径0.82m、深さ25cmのやや楕円形のピットがあるが内部から炭化物等は出ていない。壁面から1.5m前後の部分にも不規則的なピットがあるが性格は不明である。出土遺物として土器では甕形土器と鉢形土器、大型壺形土器、



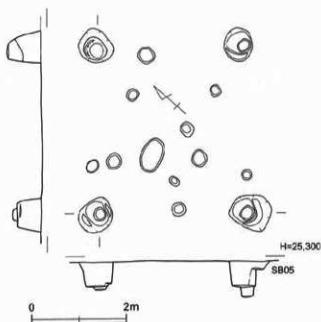
第6圖 竪穴住居 (SB07、08) (1/80)



第7圖 壁穴住居 (SB09、10) [1/80]



第8図 製穴住居 (SB11、10) [1/80]



第9図 掘立柱建物 (SB05) (1/80)

甕形土器 (丹塗) がやや多く出土、石器として、砥石 (砂岩) 1、磨石、石鏃 (黒曜石) 2、石鏃 (サヌカイト) 4、有舌石鏃 (サヌカイト) 1、石製紡錘車 (緑色片岩) が出土している。

SB12 (第8図) 長径が7.05m、短径6.85mの円形の堅穴住居で東側をSK209、SK210によって切られているが、堅穴住居の全体が良く残っている。全体に床面まで壁は10cm程度しか残っていない。床面はほぼ平坦で、柱穴は良く残っており、主軸となる4本の柱穴はほぼ北東-南西方向にあり、その外側に棟持柱と思われる直径60cm、深さ50cmと70cmの柱穴

がある。中央には直径が1.00m、深さ30cmの円形のピットがあるが内部から炭化物等は出ていない。出土遺物として土器では甕形土器と壺形土器、鉢形土器、高杯が多く出土、石器として太型蛤刃石斧未製品 (安山岩) 1、砥石 (砂岩) 1、磨石2、石鏃 (黒曜石) 1、石鏃 (サヌカイト) 6、石鏃未製品 (黒曜石) 1、石鏃未製品 (サヌカイト) 2、スクレイパー1、土製品として土製勾玉、丸玉、土錘が出土している。

掘立柱建物 (SB)

今回の調査で、掘立柱建物は調査区の東側より1棟検出した。一次調査で検出した2棟とは並び、規模も1間×1間の建物で棟方向も同じのため、三棟の掘立柱建物はほぼ同時期に存在したものと思われるが、遺物が出土していないため時期は不明であるが、堅穴住居や土塹とはほぼ同時期のものと考えられる。

SB05 (第9図) 一次調査で検出した2棟の掘立柱建物SB02、SB03の南側10mにあり、三棟の掘立柱建物は同時期に存在したものと思われる。SK82と切りあっているが、前後関係は不明である。掘立柱建物の桁行方向は、ほぼ北東-南西で1間×1間の建物である。建物の規模は桁行3.5m、梁行3.07mで、柱穴の掘り方も一辺60cmから70cmあり、柱痕跡が25cm前後ある。深さも60cmから70cmも残っている。掘り方内からの遺物の出土はほとんどないが、甕形土器と甕形土器がわずかに出土しており、石器として黒曜石の剥片が出土している。

土壌 (SK)

土壌は調査区のほぼ全域で200基検出された。数基づつ群をなすように分布するが、特に堅穴住居の周辺に集中している。北側が比較的少ない。平面形は長方形、隅丸長方形が多く、大半を占める。わずかに、円形、楕円形が混じるが、大きさもまちまちである。大きな土壌では長さ6mを超すものもあり、多量の遺物を出土する土壌と、ほとんど遺物が出土しない土壌もある。特にSK133から有柄の磨製石鍬が出土している。土壌の性格は不明であるが貯蔵穴、廃棄土壌等が考えられる。土壌の時期は、土器の形態から大きく二つの時期に分けることができる。

SK61 (第10図) 隅丸長方形で長さ1.11m、幅0.97mの小型土壌。遺物として甕形土器が少量出土している。

SK62 (第10図) 不整形で長さ1.73m、幅0.73mの小型土壌。遺物として、甕形土器が少量出土している。

SK63 (第10図) 隅丸長方形で長さ0.95m、幅0.49mの小型土壌。遺物として、器種は不明であるが土器が少量出土した。

SK64 (第10図) 隅丸長方形で長さ1.92m、幅1.35mの土壌で、SD02によって切られる。遺物として、姫島産黒曜石片と少量の土器が出土した。

SK65 (第10図) 隅丸長方形で長さ1.02m、幅1.06mの小型土壌。遺物は出土しなかった。

SK66 (第10図) 隅丸長方形で長さ1.14m、幅0.62mの小型土壌。遺物として甕形土器と壺形土器が少量出土した。

SK67 (第10図) 円形で長径1.01m、短径1.1mの小型土壌。遺物として、サヌカイト片が出土している。

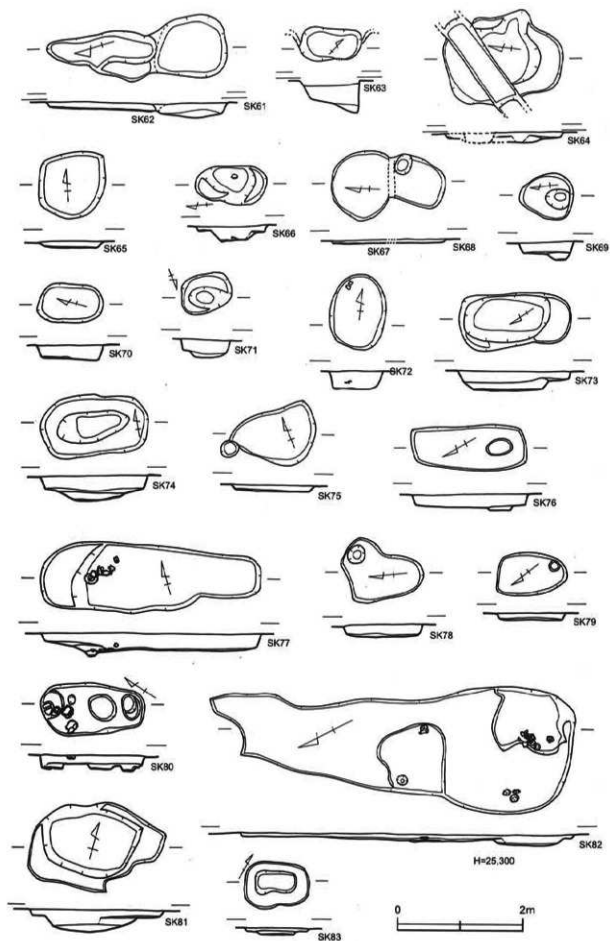
SK68 (第10図) 隅丸長方形で長さ0.81m、幅1.1mの小型土壌。遺物として、土器片がわずかに出土した。

SK69 (第10図) 円形で長径0.85m、短径0.74mの土壌で、隅にピットが存在する。遺物は出土しなかった。

SK70 (第10図) 隅丸長方形で長さ1.04m、幅0.62mの小型土壌。遺物は出土しなかった。

SK71 (第10図) 隅丸長方形で長さ0.83m、幅0.6mの小型土壌で、中心部に落ち込みがある。遺物は出土しなかった。

SK72 (第10図) 隅丸長方形で長さ1.17m、幅0.9mとやや小型の土壌。遺物は出土しなかった。



第10圖 土壙 (SK61~83) (1/60)

SK73 (第10図) 隅丸長方形で長さ1.78m、幅0.84mの土壌で、中心部に落ち込みがある。遺物としては甕形土器と丹塗の高杯、砥石、サヌカイト片、黒曜石片が出土している。

SK74 (第10図) 隅丸長方形で長さ1.73m、幅0.97mの土壌で、中心部に落ち込みがある。遺物としては、甕形土器と、甕形土器、丹塗の甕形土器、サヌカイト片などが出土している。

SK75 (第10図) 隅丸長方形で長さ1.31m、幅0.92mとやや小型の土壌。遺物は出土しなかった。

SK76 (第10図) 隅丸長方形で長さ1.82m、幅0.72mの土壌で、南側に浅いピットが存在する。遺物として、甕形土器と黒曜石片が出土している。

SK77 (第10図) 東側が狭くなる隅丸長方形で長さ3.48m、幅1.08mの土壌。西側に土器が集中し、落ち込みがある。遺物として甕形土器と甕形土器、丹塗の甕形土器、高杯、鉢型土器、磨石が出土している。

SK78 (第10図) 隅丸長方形で長さ1.25m、幅0.88mの小型土壌。遺物は出土しなかった。

SK79 (第10図) 隅丸長方形で長さ1.1m、幅0.72mの小型土壌。遺物として、磨石が出土した。

SK80 (第10図) 隅丸長方形で長さ1.64m、幅0.82mの土壌。3個の落ち込みがあり、西側に土器が集中している。遺物として、甕形土器と甕形土器、サヌカイト片、磨石が出土している。

SK81 (第10図) 隅丸長方形で長さ2.11m、幅1.37mの土壌で、中央部に落ち込みがある。遺物は出土しなかった。

SK82 (第10図) 隅丸長方形で長さ5.31m、幅1.47mと大型の土壌。南側に土器が集中しており、遺物としては、甕形土器と甕形土器、甕形土器の蓋、サヌカイト片、黒曜石片、磨石などがやや多く出土している。

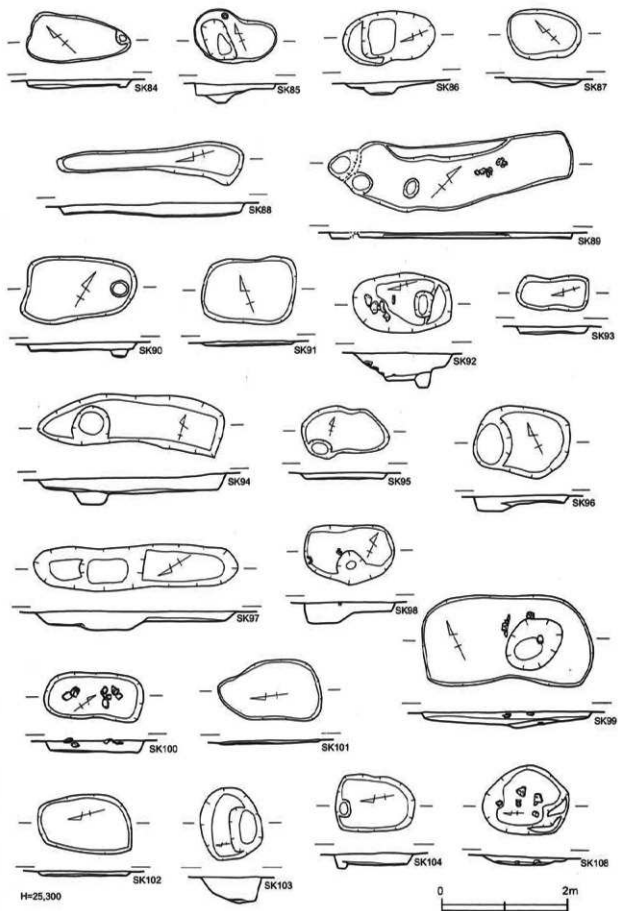
SK83 (第10図) 隅丸長方形で長さ1.03m、幅0.68mの小型土壌。中央部に一段落ち込みがあり、遺物として、土器が少量出土している。

SK84 (第11図) 南側が狭くなる隅丸長方形で長さ1.68m、幅0.72mの土壌。遺物は出土しなかった。

SK85 (第11図) 隅丸長方形で長さ1.3m、幅0.72mとやや小型の土壌。東側に落ち込みがある。遺物は出土しなかった。

SK86 (第11図) 隅丸長方形で長さ1.46m、幅0.81mの土壌で、中央部に落ち込みがある。遺物としては、甕形土器や石鏃未製品(サヌカイト)、スクレイパー(サヌカイト)が出土している。

SK87 (第11図) 隅丸長方形で長さ1.17m、幅0.8mの土壌。遺物として、石鏃未製品(サヌカイト)が出土している。



第11圖 土壙 (SK84~104・108) [1/60]

SK88 (第11図) 幅が狭く細長い隅丸長方形で長さ2.97m、幅0.34mの土壌。北側を中心に遺物が出土し、遺物として大型の壺形土器が出土した。

SK89 (第11図) 隅丸長方形で長さ3.87m、幅1.05mとやや大型の土壌。遺物は北側に集中している。遺物として、甕形土器片が少量とサヌカイト片、黒曜石片が出土した。

SK90 (第11図) 隅丸長方形で長さ1.75m、幅1.0mの土壌。遺物として、甕形土器と壺形土器、鉢型土器が出土した。

SK91 (第11図) 隅丸長方形で長さ1.5m、幅1.0mの土壌。遺物として、黒曜石片が出土した。

SK92 (第11図) 隅丸長方形で長さ1.59m、幅0.9mの土壌。床面はすり鉢状になり、北側には塊石がある。遺物としては、土器が少量出土した。

SK93 (第11図)、隅丸長方形で長さ1.15m、幅0.5mとやや小型の土壌。遺物として、石鏃未製品(サヌカイト)、サヌカイト片が出土した。

SK94 (第11図) 隅丸長方形で長さ3.0m、幅0.73mの土壌。遺物としては、土器が少量出土している。

SK95 (第11図) 隅丸長方形で長さ1.37m、幅0.72mの土壌。遺物は出土しなかった。

SK96 (第11図) 隅丸長方形で長さ1.51m、幅1.1mの土壌。遺物として、甕形土器や大型の壺形土器が出土している。

SK97 (第11図) 幅が狭く細長い隅丸長方形で長さ3.22m、幅0.81mの土壌。出土遺物としては、甕形土器、黒曜石片、磨石が出土している。

SK98 (第11図) 隅丸長方形で長さ1.44m、幅0.95mとやや小型の土壌で、東側に落ち込みがある。遺物として、甕形土器や石鏃(サヌカイト)、サヌカイト片が出土した。

SK99 (第11図) 隅丸長方形で長さ2.7m、幅1.31mと大型の土壌。中央部から土器が出土し、遺物としては、甕形土器とサヌカイト片、石鏃(黒曜石)、敲石(砂岩)などがやや多く出土した。

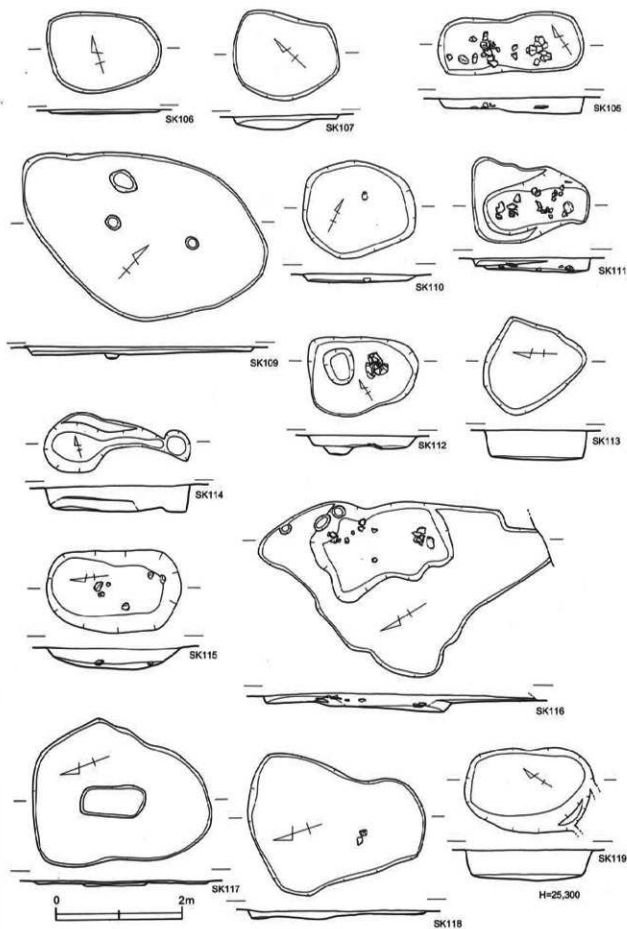
SK100 (第11図) 隅丸長方形で長さ1.58m、幅0.71mの土壌。出土遺物として、甕形土器がやや多く出土したほか、石鏃(サヌカイト)や石鏃(黒曜石)、砥石(砂岩)が出土している。

SK101 (第11図) 隅丸長方形で長さ1.64m、幅0.94mの小型土壌。遺物として、石鏃(サヌカイト)が出土している。

SK102 (第11図) 隅丸長方形で長さ1.48m、幅0.93mの小型土壌。遺物は出土しなかった。

SK103 (第11図) 楕円形で長径0.98m、短径1.13mの土壌で、すり鉢状になっている。遺物として、甕形土器と石鏃(サヌカイト)が出土している。

SK104 (第11図) 隅丸長方形で長さ1.27m、幅0.87mの土壌。遺物として、鉢型土器が出土している。



第12圖 土壺 (SK105~107・109~119) (1/60)

SK105 (第12図) 隅丸長方形で長さ2.31m、幅0.83mの土壌。遺物として、甕形土器と甕形土器蓋、サヌカイト片が全体から出土した。

SK106 (第12図) 隅丸長方形で長さ1.8m、幅1.26mの土壌。遺物として、サヌカイト片が出土している。

SK107 (第12図) 隅丸長方形で長さ1.68m、幅1.36mの土壌。遺物として、甕形土器、サヌカイト片、黒曜石片が出土している。

SK108 (第11図) 楕円形で長さ1.33m、幅1.11mの土壌。中央部に土器が集中し、出土遺物として、甕形土器と甕形土器蓋などがやや多く出土しており、石器として磨石も出土している。

SK109 (第12図) 楕円形で長さ3.59m、幅2.63mとやや大型の土壌。遺物として、サヌカイト片、黒曜石片が出土した。

SK110 (第12図) 隅丸長方形で長さ1.78m、幅1.51mの土壌。遺物として、サヌカイト片が出土している。

SK111 (第12図) 隅丸長方形で長さ1.85m、幅1.13mの土壌。全体に土器が出土している。遺物として、甕形土器と甕形土器、丹塗の甕形土器、甕形土器蓋がやや多く出土したほか、黒曜石片、サヌカイト片が出土している。

SK112 (第12図) 隅丸長方形で長さ1.73m、幅1.17mの土壌。中央部から土器が出土し、甕形土器や甕形土器がわずかに出土した。

SK113 (第12図) 不整形の長さ1.6m、幅1.36mの土壌。遺物として、サヌカイト片や黒曜石片が出土している。

SK114 (第12図) 不整形の長さ2.3m、幅0.74mの土壌。遺物として、甕形土器と石鏃(サヌカイト)が出土している。

SK115 (第12図) 隅丸長方形で長さ2.14m、幅1.03mの土壌で、底はすり鉢状になっている。遺物として、甕形土器とサヌカイト片、磨石が出土した。

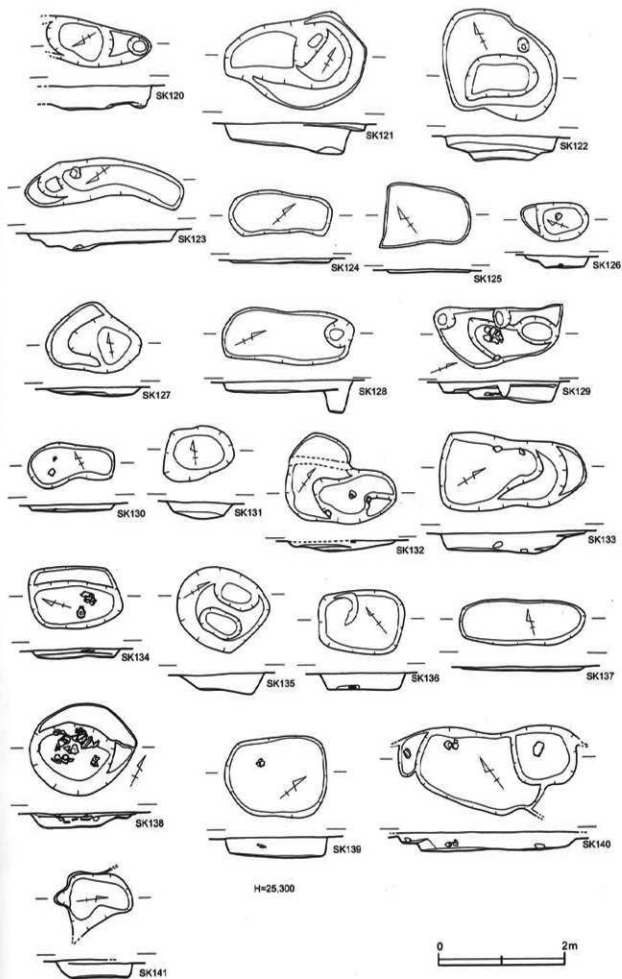
SK116 (第12図) 隅丸長方形で長さ2.65m、幅1.10mの土壌。出土遺物として、甕形土器片がやや多く出土したほか、黒曜石片、サヌカイト片、磨石が出土している。

SK117 (第12図) 不整形で長さ2.8m、幅2.03mの土壌で、中央部に浅い長方形の落ち込みがある。遺物として、黒曜石片、サヌカイト片が出土している。

SK118 (第12図) 不整形で長方形で長さ2.82m、幅1.76mの土壌。遺物として、甕形土器、黒曜石片、サヌカイト片が出土している。

SK119 (第12図) 隅丸長方形で長さ2.02m、幅1.31mの土壌。出土遺物として、甕形土器や壺型土器、丹塗の甕形土器や高杯、鉢型土器などがやや多く出土した。

SK120 (第13図) 不整形で長さ1.68m、幅0.69mの土壌。遺物として、サヌカイト片が出土している。



第13図 土坑 (SK120~141) [1/60]

SK121 (第13図) 不整形で長さ2.25m、幅1.43mの土壌。遺物は出土しなかった。

SK122 (第13図) 隅丸長方形で長さ1.78m、幅1.65mとやや小型の土壌。遺物として、甕形土器が少量出土している。

SK123 (第13図) 幅が狭く長い隅丸長方形で長さ2.4m、幅0.59mの土壌。遺物として、土器が少量出土している。

SK124 (第13図) 隅丸長方形で長さ1.64m、幅0.67mの土壌。遺物は出土しなかった。

SK125 (第13図) 隅丸長方形で長さ1.33m、幅0.88mと小型の土壌。遺物として、土器が少量出土しており、黒曜石片も出土している。

SK126 (第13図) 楕円形で長さ1.03m、幅0.58mと小型の土壌。遺物は出土しなかった。

SK127 (第13図) (1次調査SK31) 不整形で長さ1.52m、幅1.09mの土壌。遺物は出土しなかった。

SK128 (第13図) 隅丸長方形で長さ2.06m、幅0.83mの土壌。出土遺物として、甕形土器やサヌカイト片、黒曜石片、石鏃(サヌカイト)が出土した。

SK129 (第13図) 隅丸長方形で長さ1.9m、幅0.9mの土壌。中央部に土器が集中しており、出土遺物として、甕形土器や壺型土器、サヌカイト片、黒曜石片、石鏃(サヌカイト)が出土した。

SK130 (第13図) 隅丸長方形で長さ1.38m、幅0.53mの小型土壌。遺物として、黒曜石片が出土している。

SK131 (第13図) 隅丸方形で長さ1.08m、幅0.85mの小型土壌。遺物として、甕形土器、サヌカイト片、黒曜石片が出土している。

SK132 (第13図) 隅丸長方形で長さ1.75m、幅0.89mの土壌。遺物として、甕形土器が少量出土している。

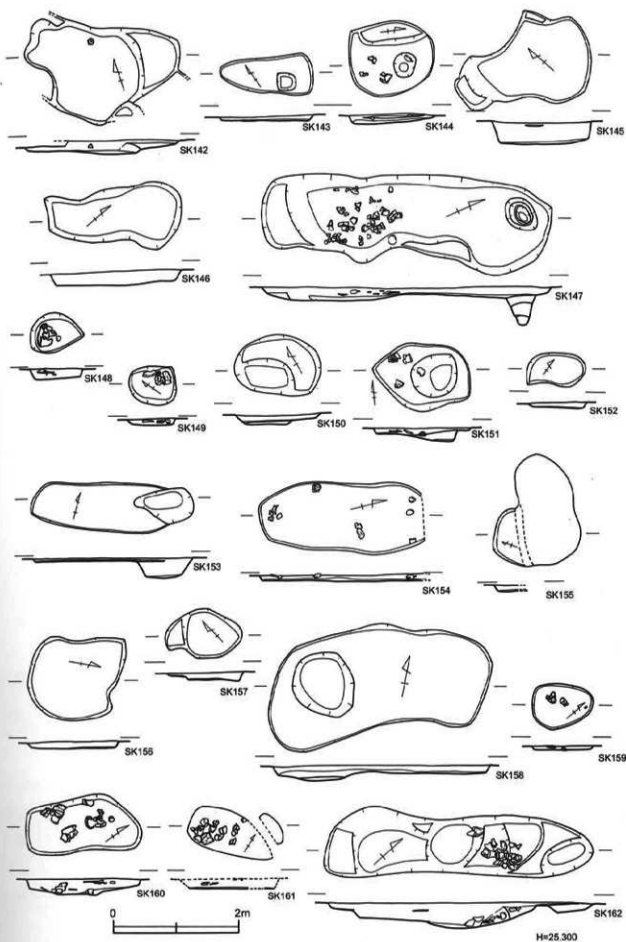
SK133 (第13図) 隅丸長方形で長さ2.31m、幅1.05mの土壌。出土遺物として、甕形土器と甕形土器が少量出土したほか、サヌカイト片、黒曜石片、磨製石鏃(有柄・粘板岩)、磨石が出土している。

SK134 (第13図) 隅丸長方形で長さ1.45m、幅1.01mの土壌。出土遺物として、甕形土器がやや多く出土したほか、磨石、石製「ゆはず?」などが出土している。

SK135 (第13図) 円形で直径1.6mの土壌で、すり鉢状になっている。遺物として、甕形土器やサヌカイト片、黒曜石片、石鏃(サヌカイト)が出土している。

SK136 (第13図) 隅丸長方形で長さ1.36m、幅1.02mの土壌。底面に接して白色粘土が出土している。遺物としては、甕形土器と甕形土器蓋、黒曜石片が出土している。

SK137 (第13図) 隅丸長方形で長さ1.98m、幅0.69mの土壌。遺物として、サヌカイト片が出土した。



第14図 土贖 (SK142~162) [1/60]

SK138 (第13図) 円形で長径1.68m、短径1.46mの土壌。遺物として、甕形土器と高杯、丹塗の高杯、鉢型土器、器台、棒状土製品(丹塗)など多くの遺物が出土した。

SK139 (第13図) 隅丸長方形で長さ1.62m、幅1.24mの土壌。遺物として、甕形土器、サヌカイト片、黒曜石片が出土している。

SK140 (第13図) 隅丸長方形で長さ2.82m、幅1.28mの土壌。遺物として、甕形土器と石鍬未製品(サヌカイト)が出土している。

SK141 (第13図) 不整形で長さ1.23m、幅0.85mとやや小型の土壌。遺物として、甕形土器、壺型土器、石鍬(サヌカイト)が出土している。

SK142 (第14図) 不整形で長さ2.48m、幅1.53mの土壌。遺物として、甕形土器が出土している。

SK143 (第14図) 不整形で長方形で長さ1.49m、幅0.53mの土壌。遺物として、サヌカイト片が出土している。

SK144 (第14図) 円形で長径1.33m、短径1.18mの土壌。遺物として、甕形土器、大型甕形土器、鉢型土器が出土した。

SK145 (第14図) 隅丸長方形で長さ2.02m、幅1.33mの土壌。遺物としては、甕形土器と壺型土器、サヌカイト片、鉢型土器、石鍬(サヌカイト)、磨石が出土している。

SK146 (第14図) 隅丸長方形で長さ2.08m、幅0.83mの土壌。遺物としては、甕形土器、黒曜石片などがやや多く出土している。

SK147 (第14図) 隅丸長方形で長さ4.6m、幅1.15mとやや大型の土壌。遺物は南側に集中して出土しており、遺物としては、甕形土器や甕形土器蓋、壺型土器、石鍬(サヌカイト)、黒曜石片、磨石などがやや多く出土している。

SK148 (第14図) 不整形で長さ0.84m、幅0.61mと小型の土壌。遺物としては、甕形土器などがやや多く出土したほか、サヌカイト片などが出土している。

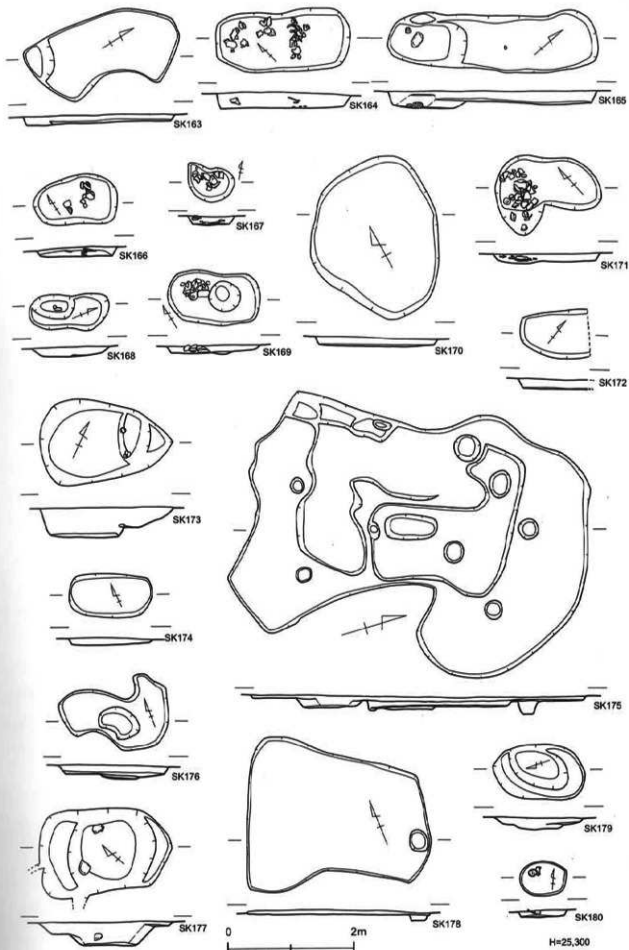
SK149 (第14図) 隅丸長方形で長さ0.74m、幅0.62mと小型の土壌。遺物として、甕形土器、器台、黒曜石片が出土した。

SK150 (第14図) 楕円形で長さ1.37m、幅0.96mの土壌。遺物として、甕形土器と黒曜石片が出土した。

SK151 (第14図) 隅丸長方形で長さ1.54m幅1.0mの土壌。遺物として、壺型土器、鉢型土器、大型鉢型土器、磨石が出土している。

SK152 (第14図) 隅丸長方形で長さ0.93m、幅0.53mの小型土壌。遺物として、甕形土器が出土した。

SK153 (第14図) 隅丸長方形で長さ2.52m、幅0.77mの土壌。遺物は出土しなかった。



第15回 土坑 (SK163~180) (1/60)

SK154 (第14図) 隅丸長方形で長さ2.6m、幅1.06mの土壌。遺物として壺形土器と甕形土器、大型甕形土器、鉢型土器、黒曜石片、片刃石斧、磨石などがやや多く出土している。

SK155 (第14図) 隅丸長方形で長さ0.83m、幅0.37mの土壌で、SK132によって切られる。遺物として、土器が少量出土している。

SK156 (第14図) 隅丸方形で長さ1.45m、幅1.23mの土壌。遺物は出土しなかった。

SK157 (第14図) 楕円形で長さ1.23m、幅0.78mの土壌。遺物として、土器が少量出土している。

SK158 (第14図) やや歪みのある隅丸長方形で長さ3.41m、幅1.58mの土壌。遺物として、甕形土器、大型甕形土器、サヌカイト片、黒曜石片、磨石が出土している。

SK159 (第14図) 楕円形で長さ0.98m、幅0.72mの土壌。遺物として、土器がわずかに出土している。

SK160 (第14図) 隅丸長方形で長さ1.83m、幅0.84mの土壌。土壌全体から遺物が出土しており、甕形土器やサヌカイト片が多量に出土している。

SK161 (第14図) 隅丸長方形で長さ1.7m、幅0.97mの土壌。土壌全体から遺物が出土している。遺物として、甕形土器、石鏃(サヌカイト)、磨石2個が出土している。

SK162 (第14図) 隅丸長方形で長さ4.23m、幅0.88mと大型の土壌。中央部に遺物が集中して出土した。出土遺物として、壺形土器と甕形土器がやや多く出土したほか、サヌカイト片、黒曜石片などが出土している。

SK163 (第15図) やや歪んだ隅丸長方形で長さ2.35m、幅1.04mの土壌。遺物として、甕形土器、高杯、石鏃(サヌカイト)が出土している。

SK164 (第15図) 隅丸長方形で長さ2.13m、幅0.95mの土壌。土壌全体から遺物が出土している。遺物として、甕形土器、壺型土器、サヌカイト片、黒曜石片、磨石がやや多く出土している。

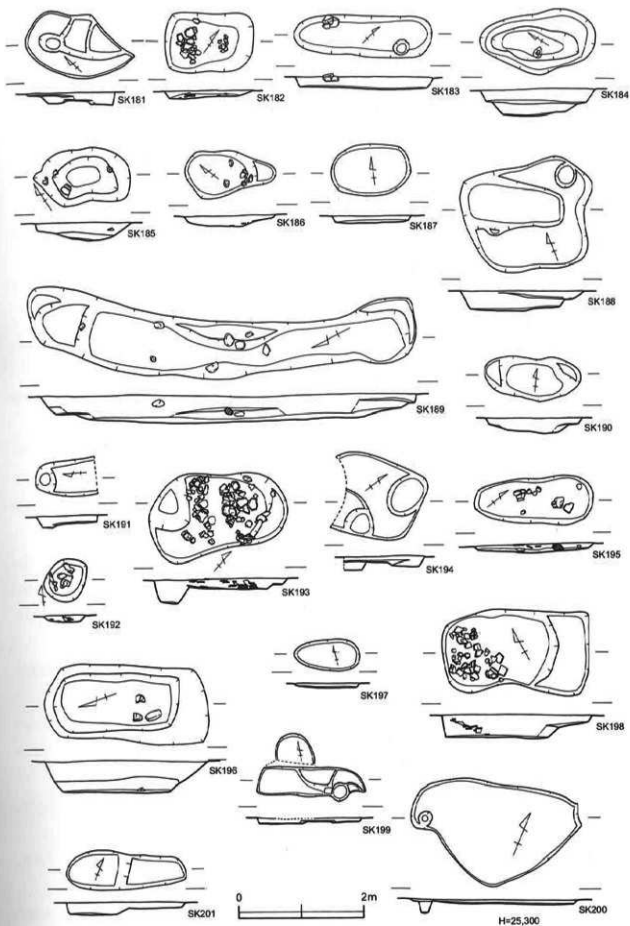
SK165 (第15図) 隅丸長方形で長さ3.33m、幅0.84mの土壌。SK162と同様の形であり、南側が落ち込んでいる。遺物として、壺形土器と甕形土器、サヌカイト片が出土している。

SK166 (第15図) 隅丸長方形で長さ1.32m、幅0.77mと小型の土壌。遺物として、壺形土器が出土している。

SK167 (第15図) 円形で長径0.74m、短径0.51mと小型の土壌。出土遺物として、甕形土器と大型甕形土器がやや出土している。

SK168 (第15図) 隅丸長方形で長さ1.34m、幅0.54mとやや小型の土壌。遺物として、甕形土器が少量出土した。

SK169 (第15図) 隅丸長方形で長さ1.46m、幅0.81mの土壌。遺物は北側に集中しており、遺物としては、甕形土器やサヌカイト片、磨石2個が出土している。



第16図 土器 (SK181~201) [1/60]

SK170 (第15図) 楕円形で長さ2.6m、幅1.93mの土壌。遺物として、土器が少量とサヌカイト片が出土している。

SK171 (第15図) 不整形で長さ1.67m、幅0.75mの土壌。北側に遺物が集中しており、出土遺物としては、甕形土器と壺型土器、大型壺型土器、石庖丁(未製品・片岩)などがやや多く出土している。

SK172 (第15図) 隅丸方形で長さ1.21m、幅0.78mの小型土壌。出土遺物として、黒曜石片、磨石が出土した。

SK173 (第15図) 楕円形で長さ2.1m、幅1.25mの土壌。遺物として、甕形土器と高杯、サヌカイト片、黒曜石片、磨石が出土している。

SK174 (第15図) 隅丸長方形で長さ1.32m、幅0.72mの土壌。遺物として、甕形土器と壺型土器が少量出土している。

SK175 (第15図) 不整形で長さ5.31m、幅2.58mと大型で浅い土壌。遺物として、土器が少量とサヌカイトが出土した。

SK176 (第15図) 不整形で長さ1.64m、幅0.82mの土壌。遺物として、土器が少量出土したほか、石鏃(黒曜石)が出土している。

SK177 (第15図) 隅丸長方形で長さ2.12m、幅1.3mの土壌で中央部が落ち込んでいる。遺物として、甕形土器と甕形土器蓋などが少量出土したほか、黒曜石片、磨石が出土している。

SK178 (第15図) 隅丸長方形で長さ2.92m、幅1.12mのやや大型で浅い土壌。遺物として、土器片が出土している。

SK179 (第15図) 楕円形で長さ1.47m、幅0.85mの土壌。中央部が落ち込んでいる。遺物として、甕形土器と大型甕形土器がわずかに出土した。

SK180 (第15図) 楕円形で長さ0.74m、幅0.55mの土壌。遺物として、甕形土器などがわずかに出土している。

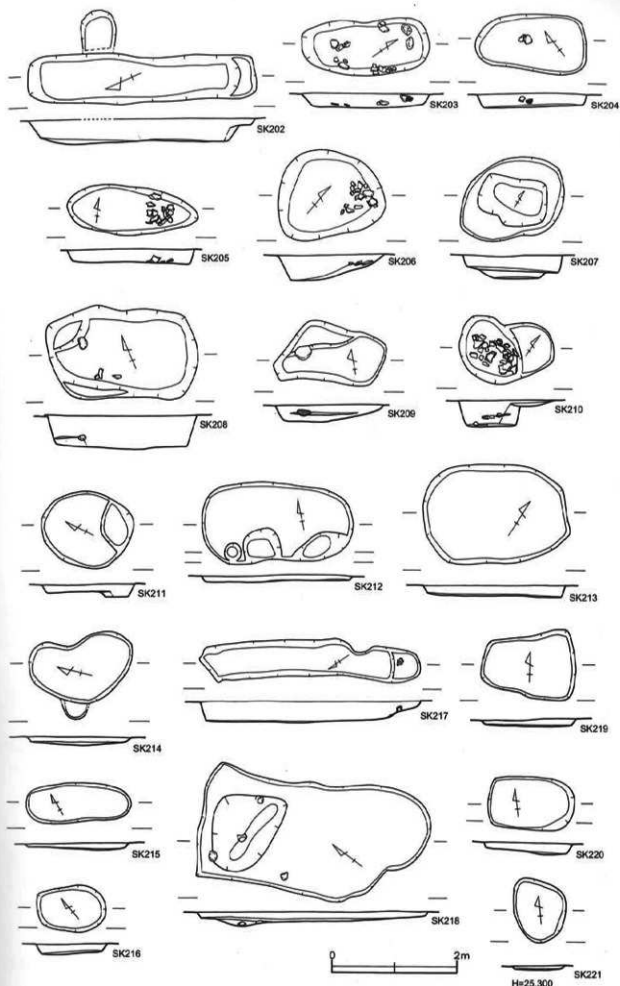
SK181 (第16図) 隅丸長方形で長さ1.43m、幅1.01mの土壌。遺物として、甕形土器、甕形土器蓋、サヌカイト片、黒曜石片などがやや多く出土している。

SK182 (第16図) 隅丸長方形で長さ1.4m、幅0.91mと小型の土壌。土壌の底からやや浮いた状態で遺物が多く出土している。出土遺物として、甕形土器や甕・ミニチュア土器、サヌカイト片、黒曜石片、土製紡錘車などが多量に出土している。

SK183 (第16図) 幅の狭い隅丸長方形で長さ2.19m、幅0.65mの土壌。遺物として、サヌカイト片がわずかに出土している。

SK184 (第16図) 楕円形で長さ1.82m、幅0.98mの土壌。中央部が落ち込んでいる。遺物として、甕形土器、大型甕形土器、器台、椀などが多量に出土している。

SK185 (第16図) 隅丸長方形で長さ1.39m、幅0.86mの土壌。遺物として、大型の甕形土器と壺形土器、石鏃(サヌカイト)がやや多く出土している。



第17圖 土横 (SK202~221) [1/60]

SK186 (第16図) 楕円形で長さ1.46m、幅0.68mの土壌。遺物として、壺形土器と甕形土器、甕形土器蓋、サヌカイト片や黒曜石片、砥石(砂岩)などがやや多く出土している。

SK187 (第16図) 楕円形で長さ1.25m、幅0.83mの土壌。遺物として、サヌカイト片が出土している。

SK188 (第16図) 隅丸方形で長さ1.94m、幅1.65mの土壌。底部分に長方形の落ち込みがみられる。遺物として、甕形土器がやや多く出土した。

SK189 (第16図) 歪曲した幅の狭い長方形で長さ5.96m、幅0.92mの大型の土壌。遺物として、甕形土器、甕形土器蓋、大型壺型土器、甕、サヌカイト片、黒曜石片、スクレイパー(サヌカイト)などが多量に出土した。

SK190 (第16図) 楕円形で長さ1.52m、幅0.66mの土壌。遺物としては、土器が少量出土している。

SK191 (第16図) 隅丸長方形で長さ0.97m、幅0.55mの土壌。遺物として、甕形土器、黒曜石片、サヌカイト片が出土している。

SK192 (第16図) 円形で長径0.65m、短径0.66mの土壌。遺物として、甕形土器やミニチュア土器がわずかに出土した。

SK193 (第16図) 隅丸長方形で長さ2.1m、幅1.13mの土壌。遺物として、壺形土器と甕形土器、鉢型土器、石鏃(サヌカイト)、黒曜石片、石槍(サヌカイト)、石核(サヌカイト)、大型給刃石斧などが多量に出土した。

SK194 (第16図) 隅丸方形で長さ1.72m、幅1.29mの土壌。遺物として、石鏃(サヌカイト)、黒曜石片、砥石(砂岩)が出土している。

SK195 (第16図) 隅丸長方形で長さ1.87m、幅0.7mの土壌。遺物として、甕形土器、壺型土器、鉢型土器、石鏃(サヌカイト)、円形石製品(サヌカイト)などが出土した。

SK196 (第16図) 隅丸長方形で長さ2.61m、幅1.22mの土壌。遺物として、甕形土器が少量出土したほか、黒曜石片、サヌカイト片が出土している。

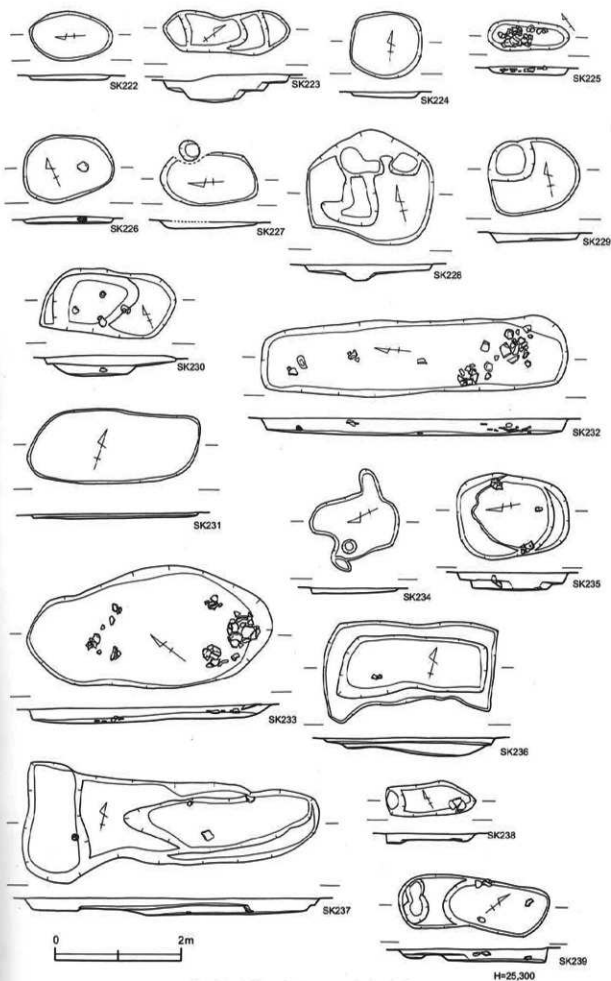
SK197 (第16図) 楕円形で長さ1.04m、幅0.52mの小型土壌。遺物として、土器が少量出土している。

SK198 (第16図) 隅丸長方形で長さ2.35m、幅1.15mの土壌。土壌の西端に床より浮いた状態で多量に土器が出土した。遺物として、甕形土器や甕形土器蓋、鉢型土器、サヌカイト片などが多量に出土している。

SK199 (第16図) 隅丸長方形で長さ1.64m、幅0.44mの土壌。遺物は出土しなかった。

SK200 (第16図) 不整形で長さ2.66m、幅1.56mの土壌。遺物は出土しなかった。

SK201 (第16図) 幅の狭い隅丸長方形で長さ1.88m、幅0.59mの土壌。遺物は出土しなかった。



第18図 土坑 (SK222~239) (1/60)

SK202 (第17図) 幅の狭い隅丸長方形で長さ3.62m、幅0.69mの土壌。遺物としては、甕形土器と壺型土器、黒曜石片、サヌカイト片が出土している。

SK203 (第17図) 隅丸長方形で長さ2.02m、幅0.84mの土壌。遺物として、甕形土器、甕、鉢型土器、サヌカイト片、黒曜石片、磨石などが出土している。

SK204 (第17図) 隅丸長方形で長さ1.72m、幅0.93mの土壌。遺物として、壺型土器、サヌカイト片、黒曜石片が出土した。

SK205 (第17図) 楕円形で長さ2.04m、幅0.77mの土壌。遺物として、甕形土器、壺型土器、高杯、鉢型土器、器台、黒曜石片などがやや多く出土している。

SK206 (第17図) 隅丸長方形で長さ1.68m、幅1.31mの土壌。北西端に土器が集中している。遺物として、甕形土器や壺型土器、鉢型土器、重弧文(丹塗)を施した壺形土器、サヌカイト片、黒曜石片などがやや多く出土している。

SK207 (第17図) 隅丸長方形で長さ1.57m、幅1.26mの土壌。中央部に落ち込みがみられる。遺物として、壺形土器が少量と、黒曜石片が出土している。

SK208 (第17図) 隅丸長方形で長さ2.38m、幅1.34mの土壌。遺物として、甕形土器や壺型土器、甕、鉢型土器、サヌカイト片などがやや多く出土している。

SK209 (第17図) 隅丸長方形で長さ1.71m、幅0.92mの土壌。遺物としては、甕形土器が少量出土したほか、サヌカイト片、磨石、石皿が出土した。

SK210 (第17図) 楕円形で長さ1.51m、幅0.92mの土壌。遺物として、甕形土器と甕が出土している。

SK211 (第17図) 楕円形で長さ1.47m、幅1.22mの土壌。遺物として、甕形土器がわずかに出土したほか、甕が出土している。

SK212 (第17図) 隅丸長方形で長さ2.39m、幅0.71mの土壌。遺物として、甕形土器が少量出土したほか、サヌカイト片が出土している。

SK213 (第17図) 隅丸長方形で長さ2.26m、幅1.53mの土壌。遺物として、土器が少量とサヌカイト片が出土している。

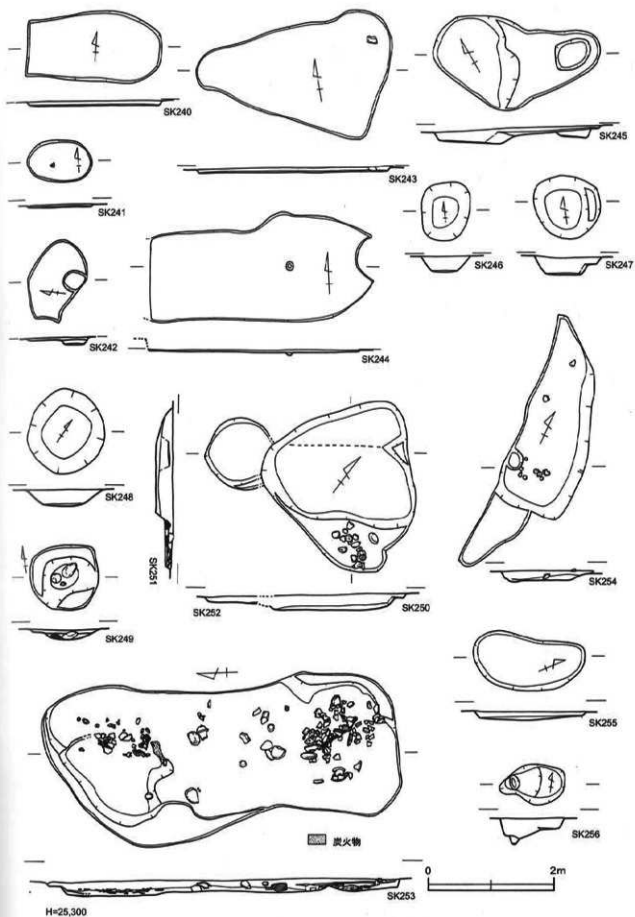
SK214 (第17図) 不整形で長さ1.63m、幅1.05mの土壌。遺物として、壺形土器、甕形土器、黒曜石片が出土している。

SK215 (第17図) 幅の狭い隅丸長方形で長さ1.65m、幅0.62mの土壌。遺物は出土しなかった。

SK216 (第17図) 隅丸長方形で長さ1.1m、幅0.74mの土壌。遺物は出土しなかった。

SK217 (第17図) 幅の狭い隅丸長方形で長さ3.45m、幅0.56mの土壌。出土遺物として、甕形土器が少量とサヌカイト片、黒曜石片、砥石(砂岩)が出土した。

SK218 (第17図) 隅丸長方形で長さ3.67m、幅1.78mの大型土壌。遺物として、甕形土器と高杯、鉢型土器、丹塗の鉢型土器、サヌカイト片などがやや多く出土した。



第19圖 土壙 (SK240~256) [1/60]

SK219 (第17図) 隅丸長方形で長さ1.48m、幅0.95mの土壇。遺物として、土器は出土しなかったが、石鏃(サヌカイト)が出土した。

SK220 (第17図) 隅丸長方形で長さ1.38m、幅0.84mの土壇。遺物として、甕形土器が少量出土している。

SK221 (第17図) 楕円形で長さ0.98m、幅0.83mとやや小型の土壇。遺物は出土しなかった。

SK222 (第18図) 楕円形で長さ1.3m、幅0.81mとやや小型の土壇。遺物は出土しなかった。

SK223 (第18図) 幅の狭い長方形で長さ2.1m、幅0.57mの土壇。遺物として、甕形土器、鉢型土器などが少量出土している。

SK224 (第18図) 隅丸方形で長さ1.19m、幅1.06mの土壇。遺物はない。

SK225 (第18図) 幅が狭く小型の隅丸長方形で長さ1.28m、幅0.45mの土壇。中央付近から土器が出土している。遺物として、甕形土器が少量出土している。

SK226 (第18図) 隅丸長方形で長さ1.43m、幅1.09mの土壇。遺物として、土器が少量出土している。

SK227 (第18図) 隅丸長方形で長さ1.55m、幅0.83mの土壇。遺物は出土しなかった。

SK228 (第18図) 隅丸長方形で長さ2.0m、幅1.81mの土壇。遺物は出土しなかった。

SK229 (第18図) 隅丸長方形で長さ1.46m、幅1.19mの土壇。遺物として、甕形土器と高杯が少量出土した。

SK230 (第18図) 隅丸長方形で長さ2.09m、幅1.01mの土壇。遺物として、甕形土器と壺型土器、黒曜石などがやや多く出土した。

SK231 (第18図) 隅丸長方形で長さ2.65m、幅1.18mの土壇。遺物として、土器が少量出土した。

SK232 (第18図) 幅が狭い隅丸長方形で長さ4.86m、幅1.13mの土壇。遺物として、甕形土器、壺型土器、高杯、鉢型土器、器台、サヌカイト片などが南側から多く出土した。

SK233 (第18図) 楕円形で長さ3.85m、幅1.94mの土壇。遺物として、甕形土器と大型甕形土器、壺型土器が多く出土した。

SK234 (第18図) 隅丸方形で長さ1.43m、幅1.05mの土壇。遺物は出土しなかった。

SK235 (第18図) 隅丸長方形で長さ1.77m、幅1.3mの土壇。遺物として、甕形土器と甕形土器、高杯、サヌカイト片などがやや多く出土している。

SK236 (第18図) 隅丸長方形で長さ2.72m、幅1.25mの土壇。遺物として、甕形土器、鉢型土器が出土している。

SK237 (第18図) 隅丸長方形で長さ4.67m、幅1.32mの土壌。遺物として、甕形土器とサヌカイト片が少量出土している。

SK238 (第18図) 幅の狭い隅丸長方形で長さ1.42m、幅0.51mの土壌。遺物として、土器が少量出土した。

SK239 (第18図) 幅の狭い隅丸長方形で長さ2.37m、幅0.78mの土壌。遺物として、壺形土器と無頸壺形土器、大型壺形土器、サヌカイト片、黒曜石片、磨石、大型蛤刃石斧などが出土している。

SK240 (第19図) 隅丸長方形で長さ2.12m、幅1.09mの土壌。遺物は出土しなかった。

SK241 (第19図) 楕円形で長さ1.03m、幅0.67mの小型土壌。遺物として、土器が少量出土している。

SK242 (第19図) 楕円形で長さ1.28m、幅0.95mと小型の土壌。遺物は出土しなかった。

SK243 (第19図) 不整形で長さ3.06m、幅1.63mの土壌。遺物として、土器が少量出土している。

SK244 (第19図) 隅丸長方形で長さ3.39m、幅1.48mの土壌。遺物は出土しなかった。

SK245 (第19図) 不整形で長さ2.63m、幅1.35mの土壌。遺物として、甕形土器と丹塗の甕形土器、甕形土器蓋、器台などがやや多く出土した。

SK246 (第19図) 隅丸方形で長さ0.92m、幅0.76mの小型土壌。遺物として、土器が少量と磨石が出土している。

SK247 (第19図) 円形で長径1.05m、短径1.01mの小型土壌。遺物として、甕形土器と石皿が少量出土している。

SK248 (第19図) 円形で長径1.36m、短径1.22mの土壌。遺物として、甕形土器が少量出土した。

SK249 (第19図) 円形で長径1.08m、短径1.03mの土壌。遺物として、土器が少量出土した。

SK250 (第19図) 隅丸長方形で長さ2.24m、幅1.78mの土壌。南側に遺物が集中し、甕形土器、丹塗の壺形土器、高杯、丹塗の高杯、鉢型土器、器台、磨石などがやや多く出土している。

SK251 (第19図) 隅丸長方形で長さ1.27m、幅0.8mの土壌。SK250によって切られている。遺物として、甕形土器、甕形土器蓋、器台、砥石(砂岩)、磨石、石核(サヌカイト)、石庖丁未製品(片岩)などが出土している。

SK252 (第19図) 円形で長さ1.13m、幅0.98mの土壌。SK250によって切られている。出土遺物として、土器がわずかに出土した。

SK253 (第19図) 大型の隅丸長方形で長さ11.20m、幅4.0~4.94mの土壌。遺物は南北2つのグループにわかれて集中している。炭化物も多く出土し、丹塗の土器も出土している。遺物として、甕形土器や甕形土器蓋、壺型土器、高杯(丹塗)、筒型器台(丹塗)、椀、黒曜石片、砥石、磨石、石皿、石庖丁などが多量に出土している。

SK254 (第19図) 隅丸長方形で長さ3.8m、幅1.21mの土壌。遺物として、甕形土器とサヌカイト片などがやや多く出土している。

SK255 (第19図) 長方形で長さ1.76m、幅0.82mの土壌。南側端に遺物が集中しており、遺物として、甕形土器と壺型土器がわずかに出土した。

SK256 (第19図) 隅丸長方形で長さ1.0m、幅0.64mの小型土壌。遺物として、土器が少量出土している。

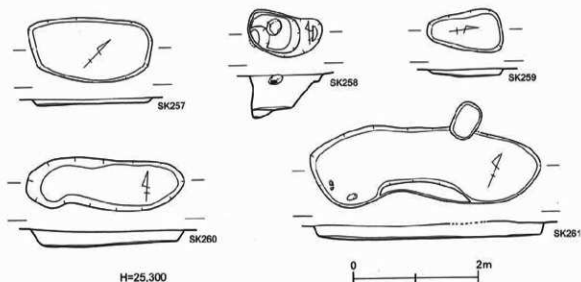
SK257 (第20図) 隅丸長方形で長さ1.88m、幅1.02mの土壌。遺物として、土器が少量出土している。

SK258 (第20図) 隅丸長方形で長さ1.15m、幅0.68mの小型土壌。遺物として、土器が少量出土している。

SK259 (第20図) 不整形で長さ1.18m、幅0.65mの小型土壌。遺物として、土器がわずかに出土した。

SK260 (第20図) 幅が狭い楕円形で長さ2.5m、幅0.78mの土壌。遺物として、甕形土器が少量出土している。

SK261 (第20図) 隅丸長方形で長さ3.64m、幅1.09mの土壌。遺物として、甕形土器、砥石(砂岩)2個が出土している。



第20図 土壌 (SK257, 261) [1/60]

溝 (SD) (第4図)

調査区全体から11条の溝を検出した。この中で弥生時代の溝は少なく、わずかに一次調査次に検出されたSD04のみである。残りの10条の溝は、いずれも歴史時代から近世にかけての溝と思われる。SD04からは土器等が多量に出土している。

SD04 調査区の南端から14m検出された。北側では検出されていないため短い溝と考えられる。溝は幅が広く約10m前後、深さは1.5m前後で湧水が多い。遺物は土器として弥生時代の壺形土器片と大型の壺形土器片、甕形土器片、筒形器台脚部片が出土したほか、自然遺物も出土している。

不明遺構 (SX)

SX01 長さ3.7m、幅2.5mの楕円形の遺構で、深さが4cmと浅く、中央部に浅い掘込みがある。遺物は出土していない。

SX02 長さ4.7m、幅1.3-1.5mで、深さが10cmと浅く、長方形を呈している。遺物は甕形土器、サヌカイト製石鏃、サヌカイト片が出土している。

SX03 長さ15mにわたって北側に落ち込む。全体に、深さが50cmと深い。遺物は土製紡錘車、サヌカイト片が出土している。

SX04 調査区の西側から検出された楕円形の周溝で長径6.65m、短径3.85m、幅は35-40cmで、深さが14-30cmと凹凸が多い。周溝は中央部がややくびれている。遺物は器台片が出土している。

SX05 直径2.50-3.25m、不整形の遺構で深さが3cmと浅い。深さ中央部に炭化物がある。遺物は出土していない。

出土遺物

土器 (第21図~第61図)

一竿遺跡からは多量の土器が出土しているが、その中で甕形土器に大きな特徴がありここでは甕形土器を中心としてⅠ~Ⅳ類と4種類に分類した。

甕形土器

Ⅰ類の特徴は胴部が「く」の字状に強く、または緩やかに屈曲し、口縁部が内側に内向して、最大径が胴部にある。口唇部や突帯部には粗い刻目を施している。口縁部の形態により大きく2つに区分

できる。

I 類 a 口縁部が外反するいわゆる如意状口縁で、胴部が「く」の字状に強く、または緩やかに屈曲し、口縁部が内側に内彎して、最大径が胴部にある。口唇部や突帯部には粗い刻目を施しており、全体に砲弾形を呈している。屈曲部には貼り付けの突帯を持ち、粗い刻目を施している。底部は平底かわずかに上げ底で、底端部がやや外側に張り出す。内、外面とも刷毛目調整と思われるが、残りの悪いものが多い。大きさは直径20cmから25cm前後で、小型のものが多い。土器の量としては少ない。

(SB12・SK182・SK206)

I 類 b 口縁部は直立又はやや内彎して、胴部が「く」の字状または緩やかに屈曲し、最大径が胴部にある。口縁部の上端外面に小さな粘土帯を貼り付け、上面を水平に仕上げている。口唇部には粗い刻目を施し、屈曲部には貼り付けの突帯を持ち、粗い刻目を施している。底部は胴部からやや締まって底部に移り、平底かわずかに上げ底で、底端部がやや外側に張り出す。内面、外面は刷毛目調整と思われるが、磨滅しており不明のものが多い。大きさは直径20cm前後で小型のものが多いが、中には直径28cmの大型のものが混じる。土器の量としては少ない。

(SB12・SK182・SK207)

II 類の特徴は胴部が砲弾形か砲弾形がやや膨らみ、口縁部が外反する (II 類 a)、口縁部は直立又はやや内彎する (II 類 b、II 類 c) があり、最大径が口縁部にある。口唇部や突帯部には細かな刻目や、粗い刻目を施している。口縁部下に貼り付けの突帯を持っている (II 類 a、II 類 b) 貼り付けの突帯の無い (II 類 a、II 類 c) があり、形態により大きく3つに区分できる。

II 類 a 口縁部が外反するいわゆる如意状口縁で、胴部が砲弾形か砲弾形でやや膨らんでいる。口縁部下に一条ないし二条の貼り付けの突帯を持つものと、突帯の無いものがある。口唇部や突帯部には細かな刻目や、粗い刻目を施している。底部は平底が多い。外面は縦方向や斜め方向の刷毛目調整が残り、内面はわずかではあるがヘラ磨きが残る。大きさは直径18cmから31cmまでであるが20cm前後が多い。土器の量としては少ない。

(SB12・SK90・SK100・SK169・SK173・SK210・SK235)

II 類 b 口縁部は直立又はやや内彎し、胴部に丸みを持つものもある。口縁部の上端外面に小さな粘土帯を貼り付け、上面を水平に仕上げ、口縁下に一条ないし二条の貼り付けの突帯を持つ。口唇部や突帯部には細かな刻目や、粗い刻目を施している。底部は平底かわずかに上げ底である。口縁の上面は横ナデによって水平に仕上げている。外面は縦方向の刷毛目調整が残り、内面はわずかに刷毛目

調整が残る。大きさは直径20cmから37cmまでであるが、25cm前後が多い。完形の土器もあり、土器の量としても多い。

(SB10・SB11・SK82・SK100・SK112・SK147・SK149・SK189・SK193)

Ⅱ類c 口縁部は直立又はやや内彎し、口縁部の上端外面に肥厚した粘土帯を貼り付ける。口縁部下に貼り付けの突帯を持ち、口唇部と突帯部に粗い刻目を施している。一例ではあるが突帯部が渦巻き状になるものもある(SK198)。口縁の上面は横なでによって水平に仕上げている。外面は荒い刷毛目調整が残る。大きさは直径21cmから28cmまでであるが、22cm前後が多い。突帯部が渦巻き状の土器は直径40cmと大型になる。土器の量としてはわずかである。

(SK145・SK198・SK208・SK210)

Ⅲ類の特徴は胴部が砲弾形か砲弾形にやや膨らみ、胴部から底部にかけては少し細り締め気味になる。底部の径は小さくなり、底部は平底かやや上げ底になる。口縁部は外反する(Ⅲ類a)、口縁部は直立又はやや内彎し上端外面に肥厚した粘土帯を貼り付ける(Ⅲ類b、Ⅲ類c)、最大径が口縁部にあり、口唇部や突帯部には刻目を施さない。口縁部下には三角型の突帯や、形骸化した貼り付けの突帯を持っている(Ⅲ類a、Ⅲ類b、Ⅲ類c)。貼り付けの突帯に細かな刻目を施す(Ⅲ類c)があり、土器の形態により大きく3つに区分できる。

Ⅲ類a 口縁部が外反するいわゆる如意状口縁で、外側に大きく折れる。口唇部は肥大する。口縁部下に一条の貼り付けの突帯を持つものと、突帯の無いものがある。口唇部や突帯部には刻目が無い。外面は縦方向の細かな刷毛目調整が残る。大きさは直径22cmから26cmまでが多い。土器の量としては少ない。

(SB10・SK140・SK142・SK160・SK162・SK225)

Ⅲ類b、Ⅱ類bと同様口縁部は直立又は内彎する。口縁部の上端外面に肥大した粘土帯を貼り付け、上面を水平、あるいはやや外側に下がり気味に仕上げる。この時期の口縁部の上端外面の粘土帯には粘土帯を貼り付けの突帯を肥大させるものや、口縁部下には形骸化した貼り付けの突帯を持つものもあり、口唇部や突帯部には刻目が無い。外面は縦方向の刷毛目調整が残り、内面はわずかにナデ調整が残る。大きさは直径19cmから36cmまでであるが、27cm前後が多い。完形の土器もあり、大きさは直径19cm、高さ20cm、直径27cm、高さ31cmを測る。土器の量としても多い。

(SB06・SB09・SK105・SK116・SK162)

Ⅲ類c 口縁部は直立又はやや内彎し、口縁部の上端外面に肥厚した粘土帯を貼り付ける。口縁部

下に形骸化した一条または二条の貼り付けの突帯を持ち、突帯部に細かな刻目を施している。外面は細かな刷毛目調整が残る。大きさは直径14cmから29cmまでであるが、24cm前後が多い。土器の量としてはわずかである。

(SK131・SK167・SK185・SK186)

Ⅳ類の特徴は口縁部が「L字状」、「T字状」となり、胴部は砲弾形がやや膨らみ、胴部から底部にかけては細く締まる。底部の径は比較的小さく、底部は平底かやや高い上げ底になり、踵部は丸くつくられる。口縁部と貼り付けの突帯の形態により、大きく2つに区分できる。

Ⅳ類 a 口縁部が外側に大きく折れ、L字状となるもので、口唇部は肥大する。口縁部下に一条の貼り付けの突帯を持つものと、突帯の無いものがある。口唇部や突帯部には刻目が無いものが多いが、わずかではあるが刻目を施すものも見られる。外面は縦方向の細かな刷毛目調整が残る。大きさは直径22cmから26cmまでが多い。土器の量としては多い。

(SK77・SK137・SK149・SK151・SK163・SK184・SK205・SK212・SK213・SK214・SK232・SK233・SK236・SK250・SK251・SK253)

Ⅳ類 b 口縁部はほぼ直立し「T」字形になるが、内唇はわずかに張り出すもので、口縁部の上端は平坦かやや凹むもの、外側に大きくはね上げるものがある。外面は縦方向の刷毛目調整が残る。また、丹塗土器もあり、口縁部に刻目を施している。

(SK77・SK119・SK151・SK184・SK205・SK245・SK253)

土製品 (第62図)

堅穴住居や土壇、柱穴から勾玉、丸玉、投弾、棒状品、紡錘車が出土している。

勾玉 (1) SB12から出土した勾玉で、長さ4.0cm。丸みを持っている。

丸玉 (2) SB12から出土したやや細長い丸玉で、長さ2.4cm、直径1.4cm。

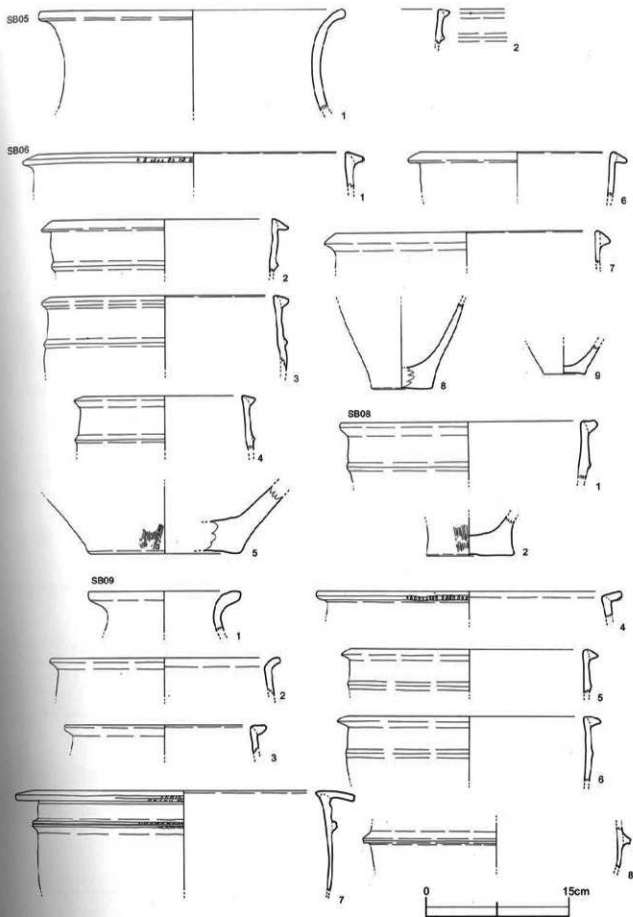
土鍾 (3) 表採品

投弾 (4) 柱穴から出土した。長さ2.4cm、直径1.4cm。

棒状品 (5) 長さ3.5cm、直径1.2cmで全体に丹塗が施されている。

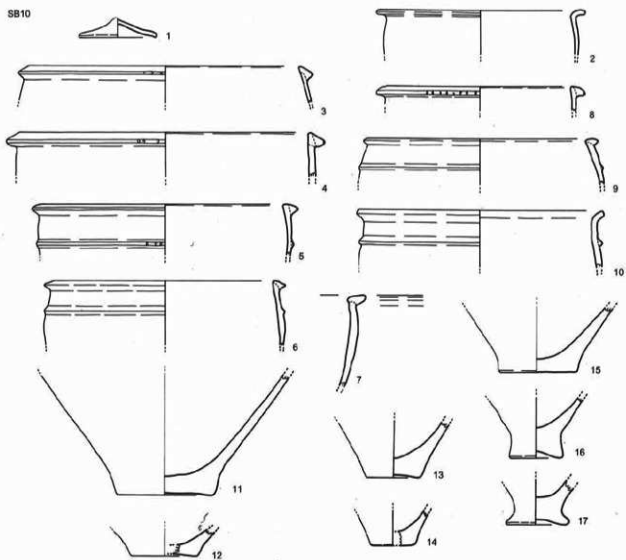
紡錘車 (6-11) (6) SB06から出土した。直径4.8cm、厚さ1.2cmで中央部が厚くなり孔がある。(7) pitから出土した。直径5.9cm、厚さ1.3cmで中央部が厚くなり孔がある。

(8) SK182から出土した。直径5.2cm、厚さ0.9cmで中央部が厚く孔がある。(9) SX03から出土した。直径3.6cm、厚さ1.1cmで厚さは均一で中央に孔がある。(10・11) SD0

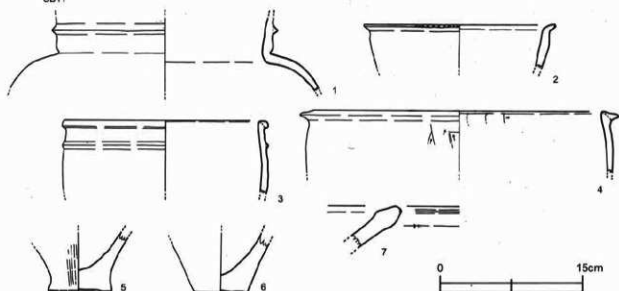


第21図 掘立柱建物 (SB05) 竪穴住居 (SB06、07、08) 出土土器 (1/4)

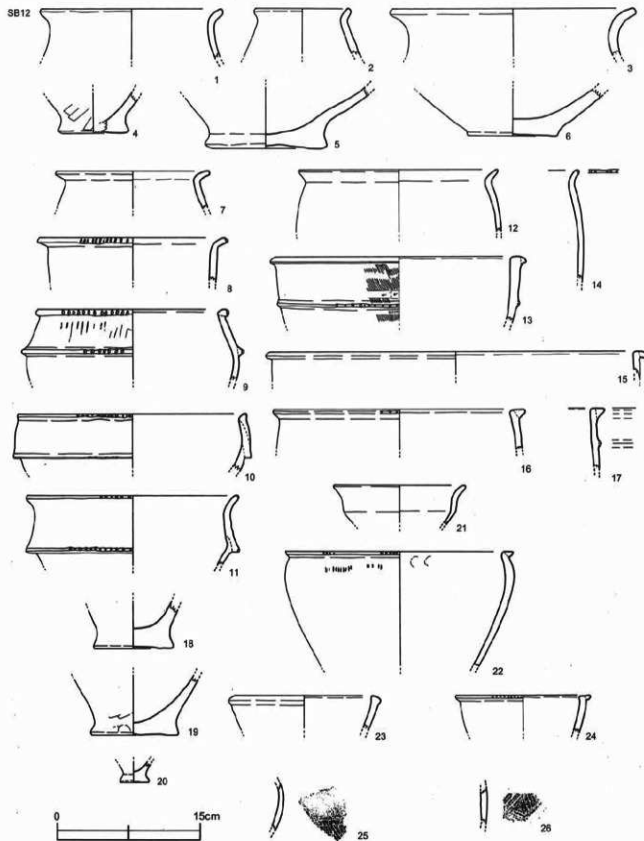
SB10



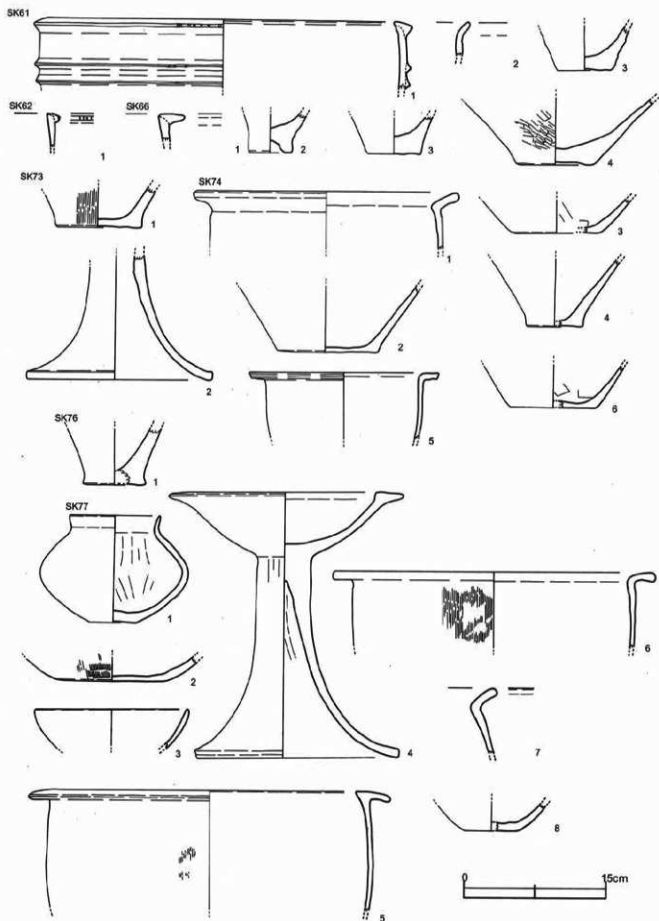
SB11



第22图 竖穴住居 (SB10、11) 出土土器 (1/4)

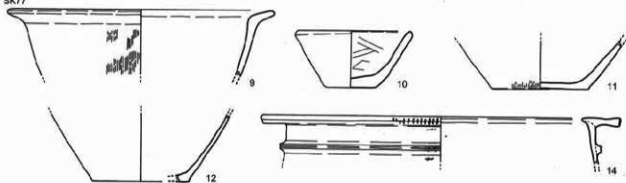


第23圖 竪穴住居（SB12）出土土器（1/4）



第24圖 土壙 (SK61、62、66、73、74、76、77) 出土土器 (1/4)

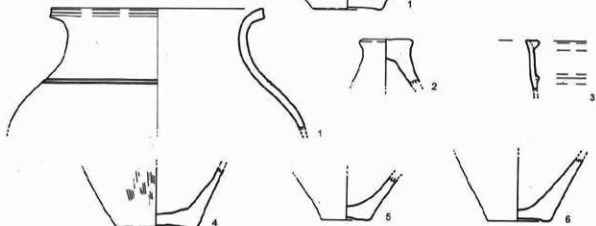
SK77



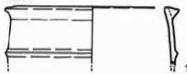
SK80



SK82



SK86



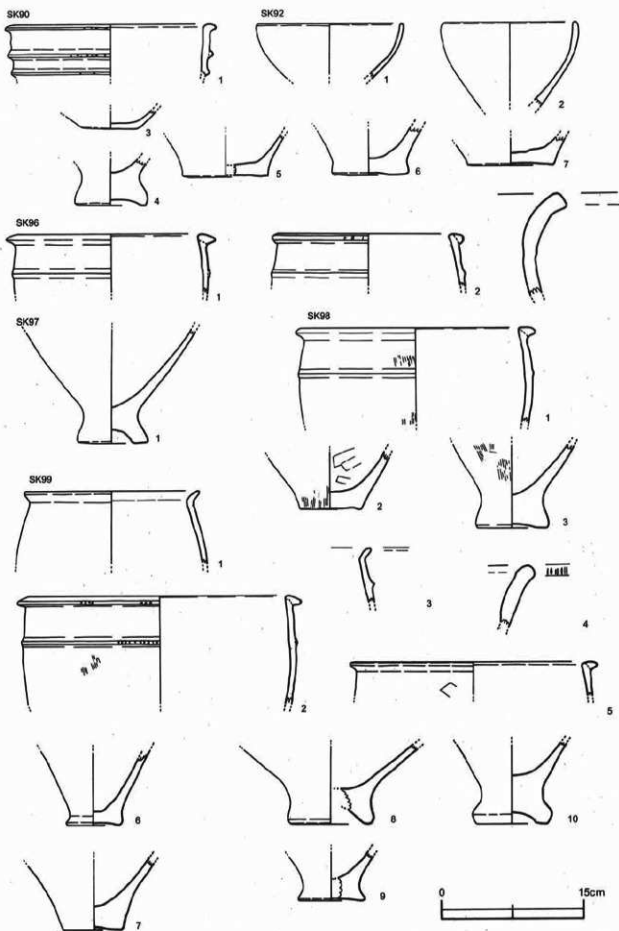
SK88



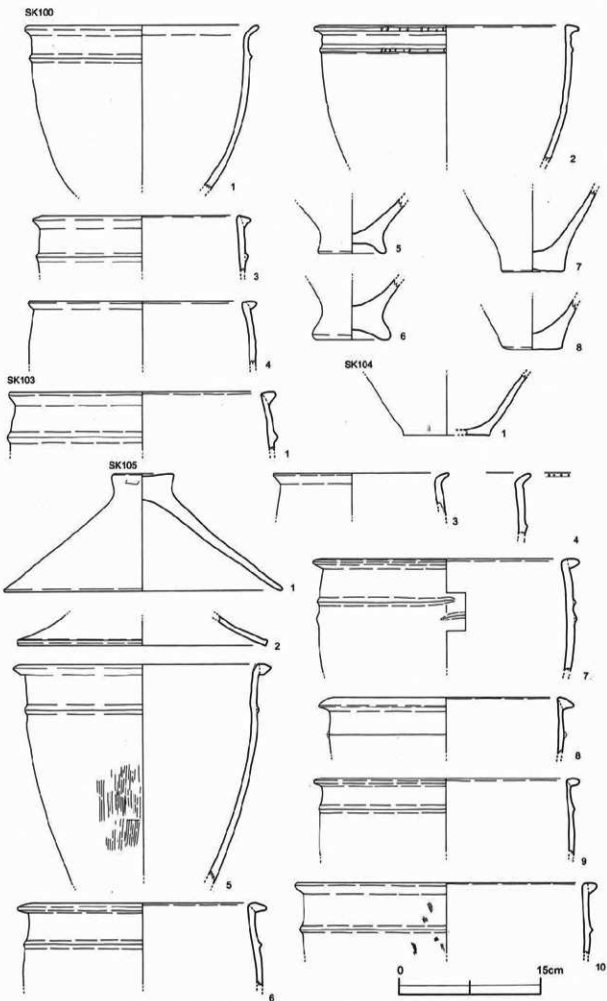
SK89



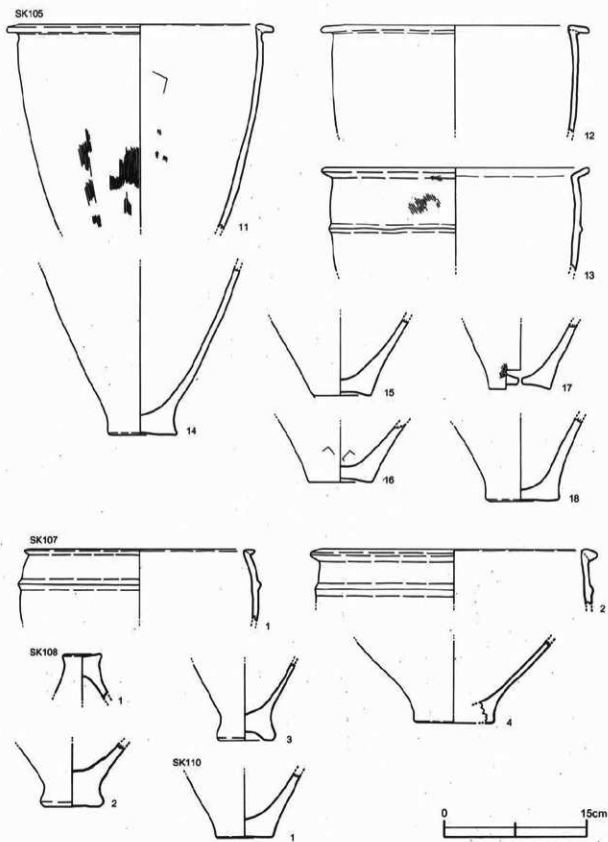
第25圖 土壙 (SK77、80、82、86、88、89) 出土土器 (1/4)



第26図 土墳 (SK90、92、96、98、99) 出土土器 (1/4)

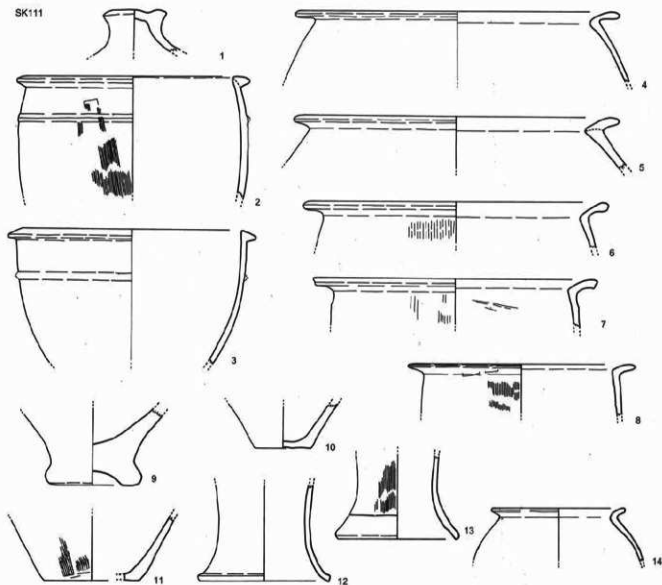


第27图 土城 (SK100、103、104、105) 出土土器 [1/4]

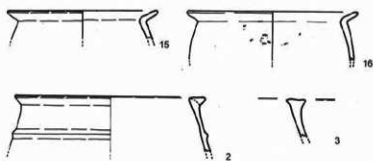
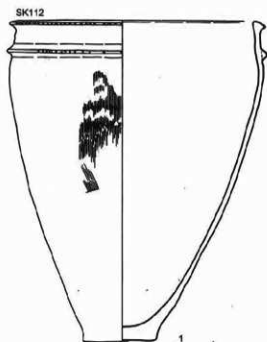


第28図 土壙 (SK105、107、108、110) 出土土器 (1/4)

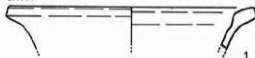
SK111



SK112



SK114

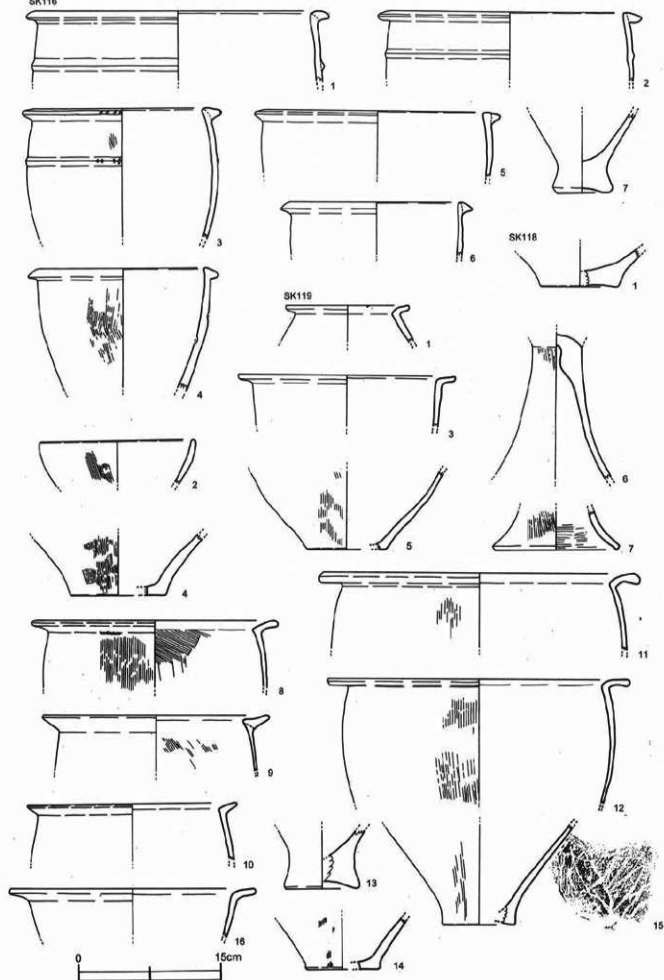


SK115

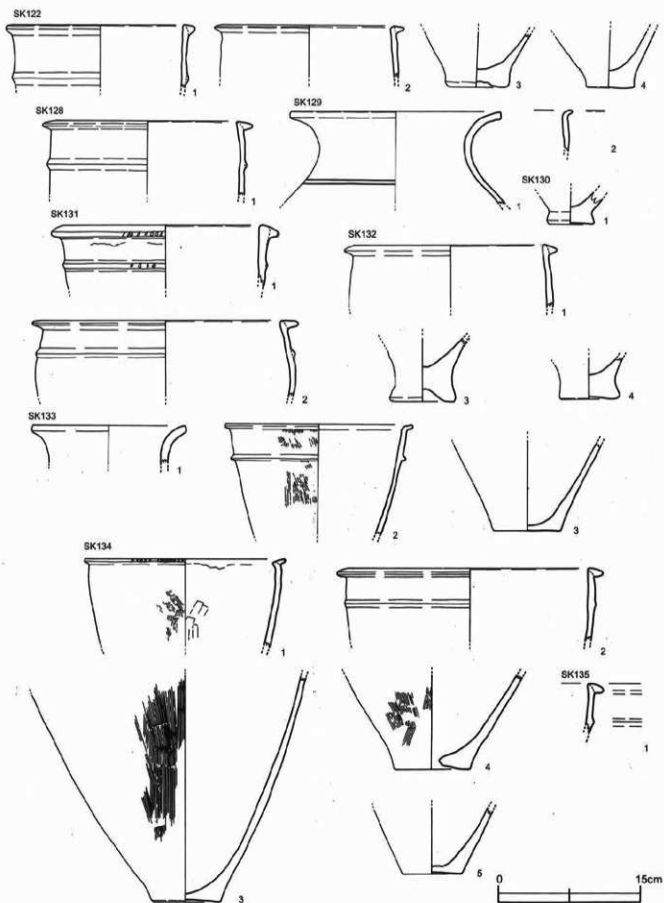


第29圖 土城 (SK111、112、114、115) 出土土器 (1/4)

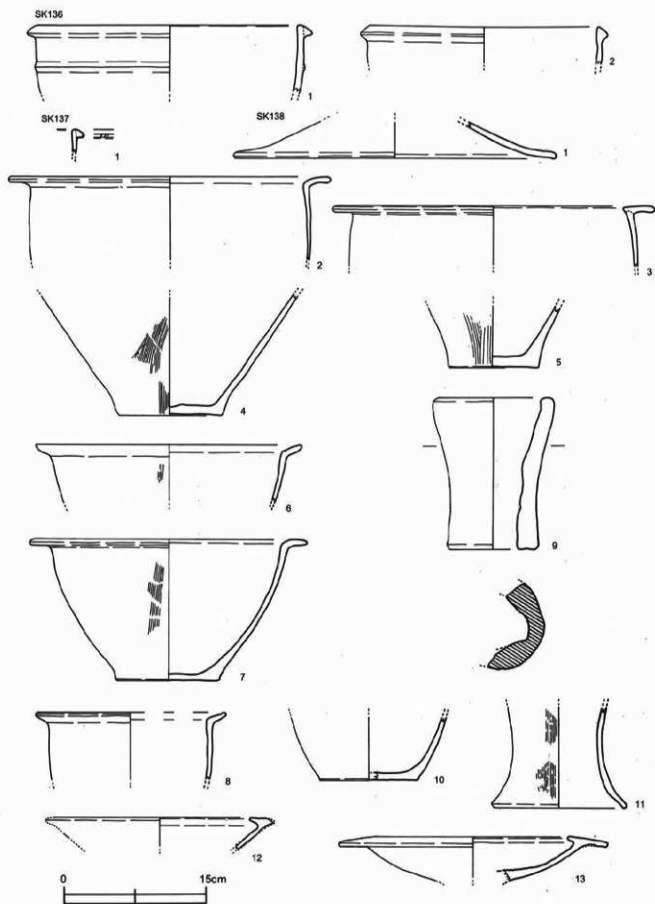
SK116



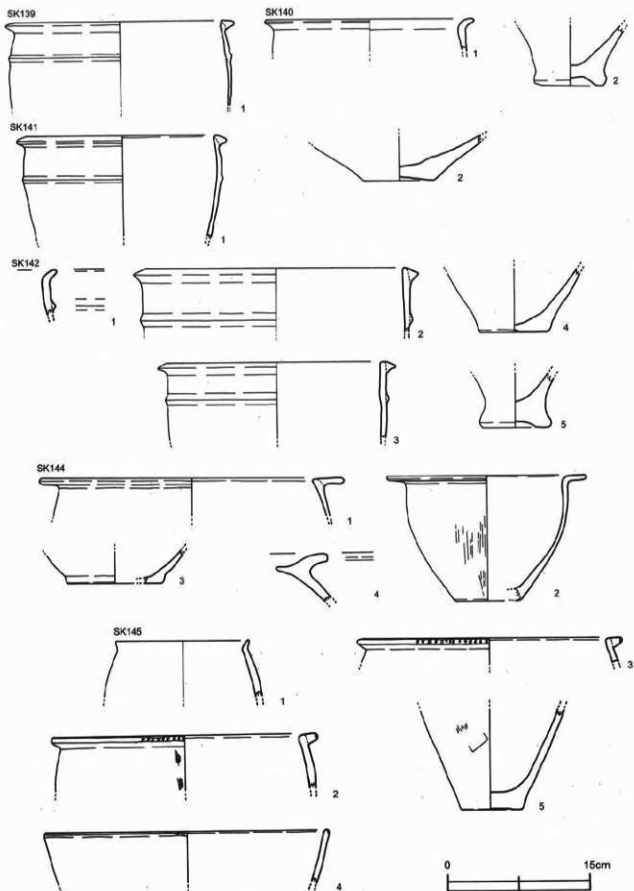
第30圖 土坑 (SK116、118、119) 出土土器 (1/4)



第31圖 土墳 (SK122、128、129、130、131、123、133、134、135) 出土土器 (1/4)

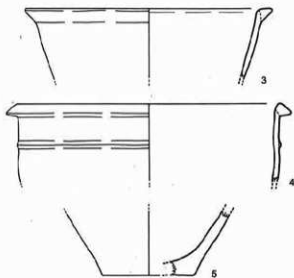
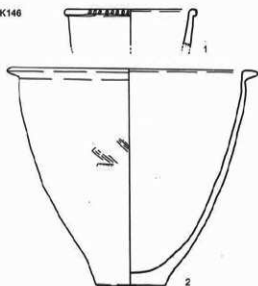


第32図 土坑 (SK136、137、138) 出土土器 (1/4)

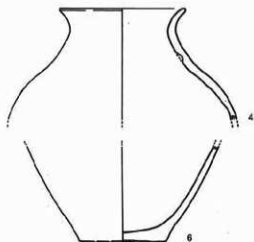
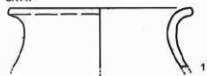


第33圖 土壙 (SK139、140、141、144、145) 出土土器 (1/4)

SK146

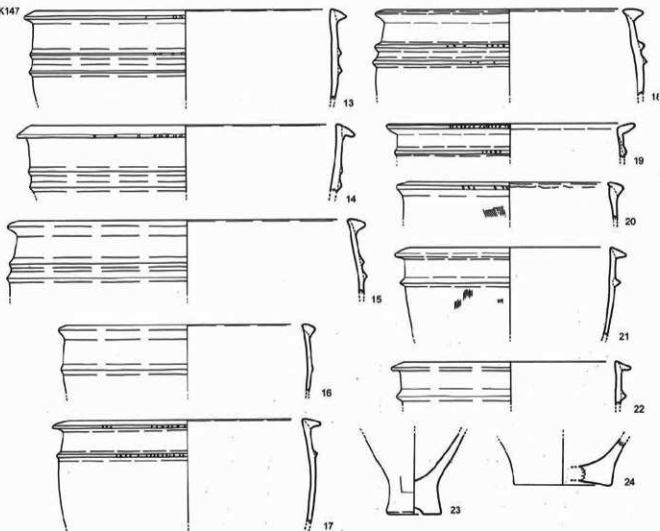


SK147

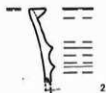
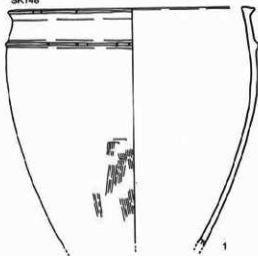


第34図 土壙 (SK146、147) 出土土器 (1/4)

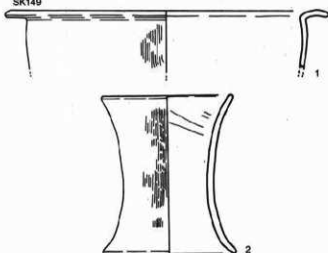
SK147



SK148



SK149

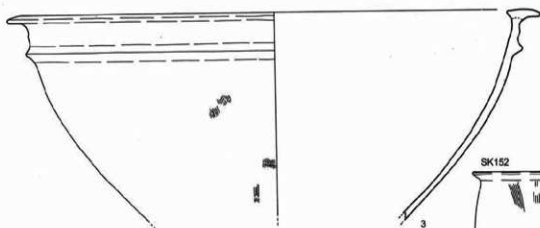


第35圖 土墳 (SK147、148、149) 出土土器 (1/4)

SK150



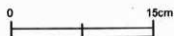
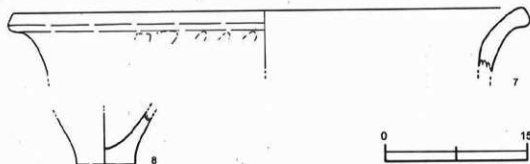
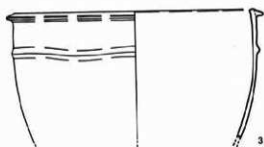
SK151



SK152

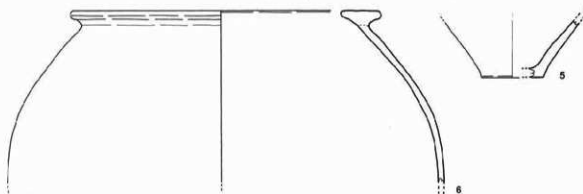
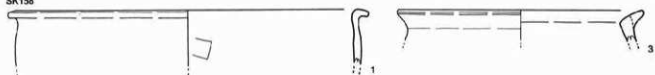


SK154

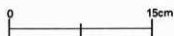
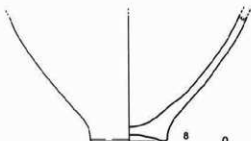
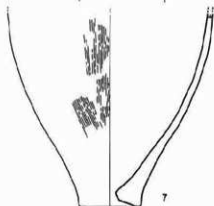
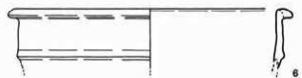
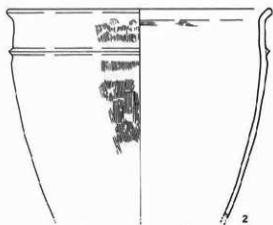
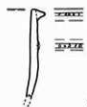
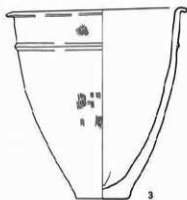
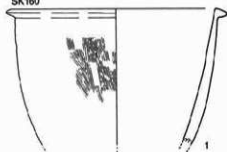


第36圖 土壙 (SK150、151、152、154) 出土土器 (1/4)

SK158

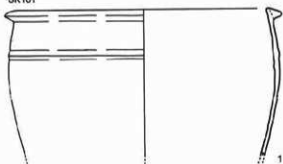


SK160

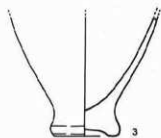


第37圖 土城 (SK158、160) 出土土器 (1/4)

SK161

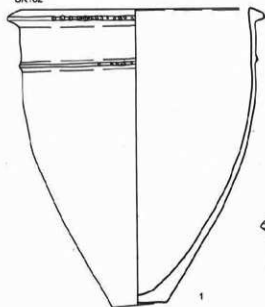


2

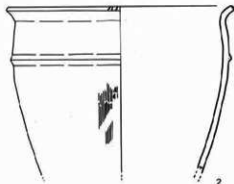


3

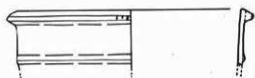
SK162



1



2



3



4



6



5

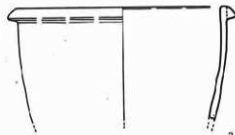


7

SK163



1



2

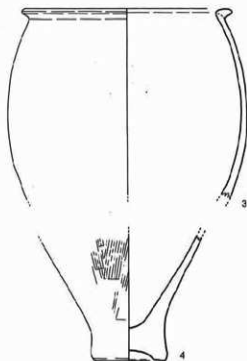
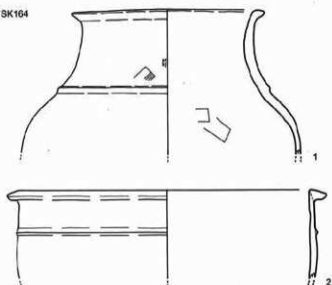


3

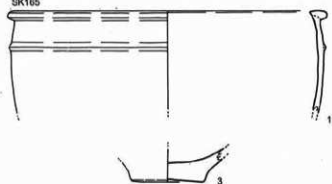


第38圖 土壙 (SK161、162、163) 出土土器 (1/4)

SK164



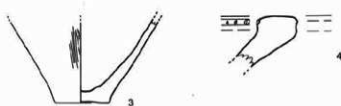
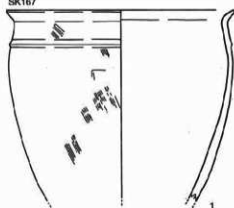
SK165



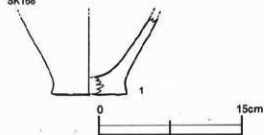
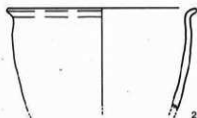
SK166



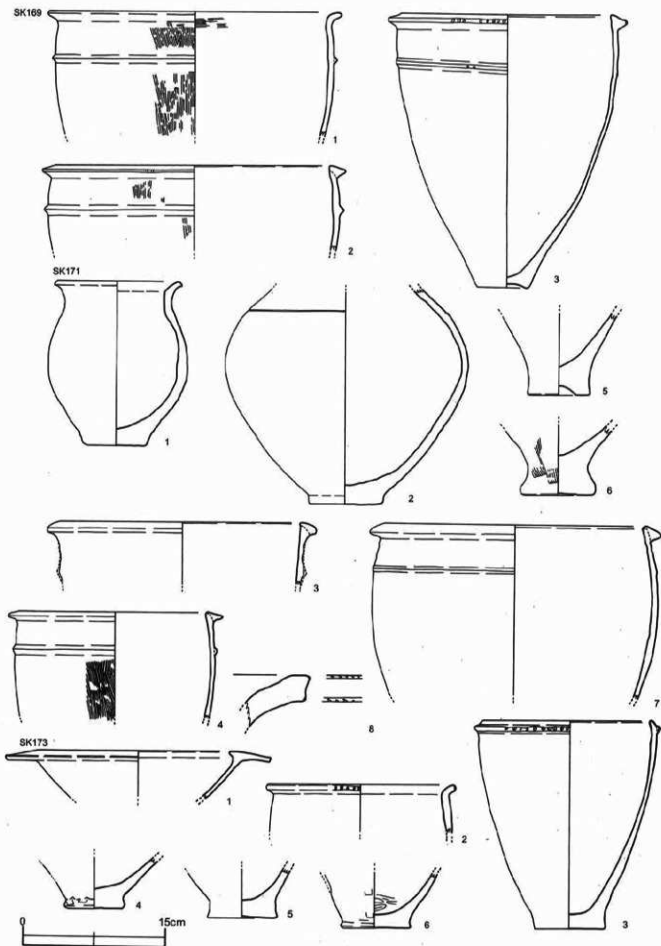
SK167



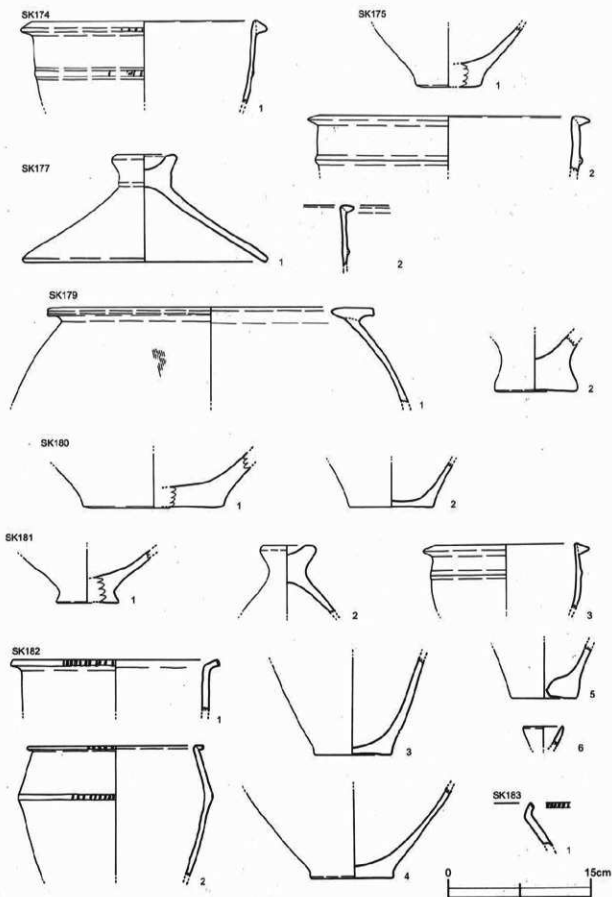
SK168



第39図 土墳 (SK164、165、166、167、168) 出土土器 (1/4)

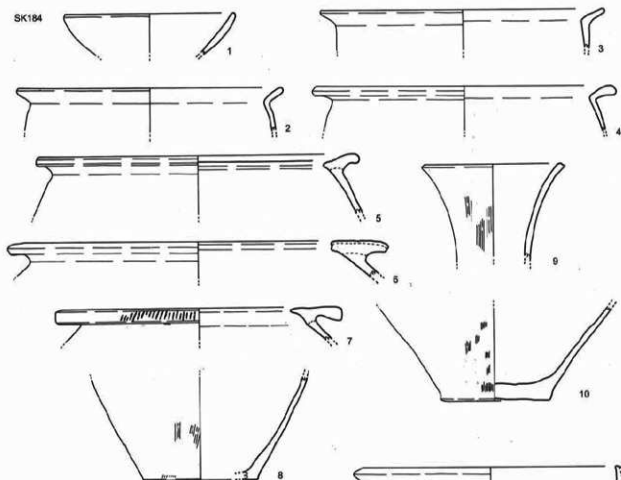


第40圖 土壙 (SK169、171、173) 出土土器 (1/4)

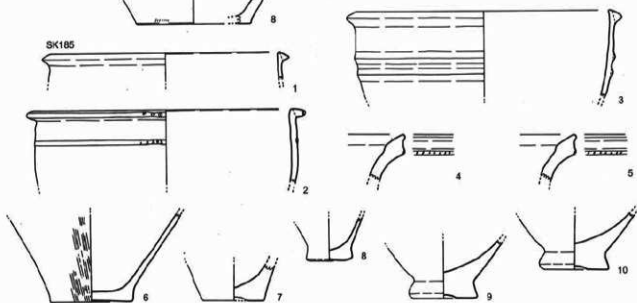


第41圖 土城 (SK174、175、177、179、180、181、182、183) 出土土器 (1/4)

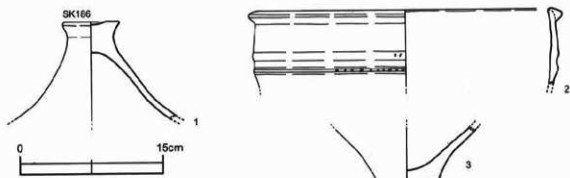
SK184



SK185

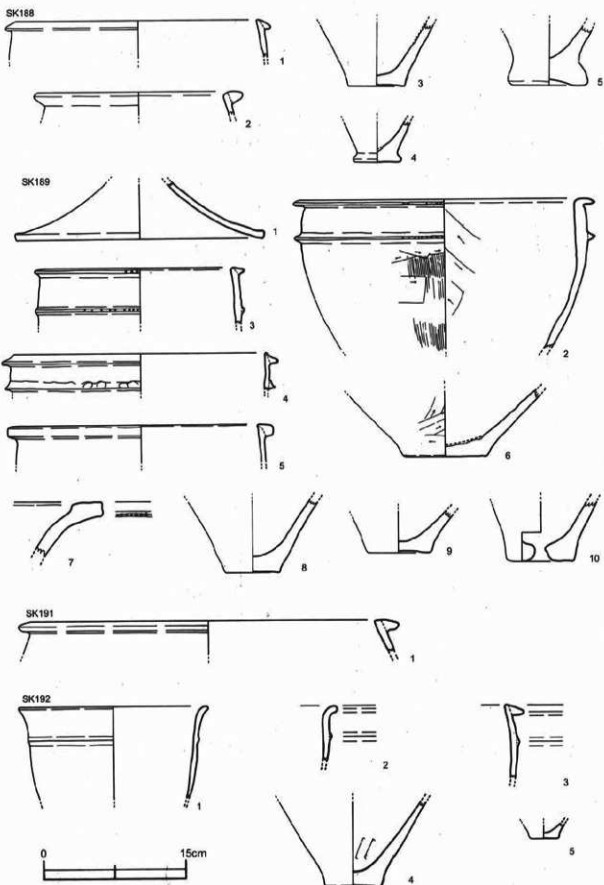


SK186

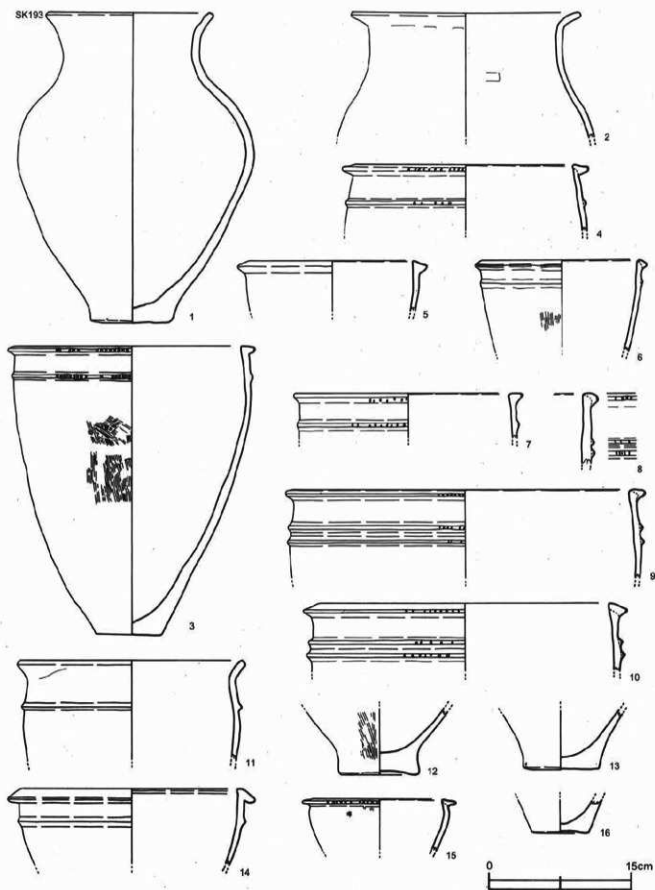


0 15cm

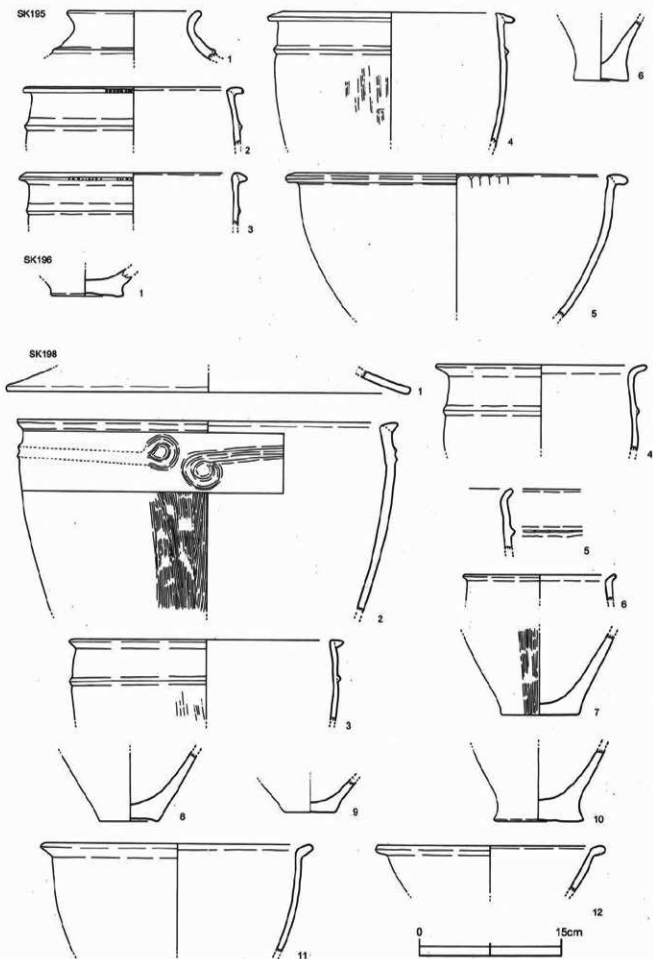
第42図 土壙 (SK184、185、186) 出土土器 (1/4)



第43圖 土壙 (SK188、189、191、192) 出土土器 [1/4]

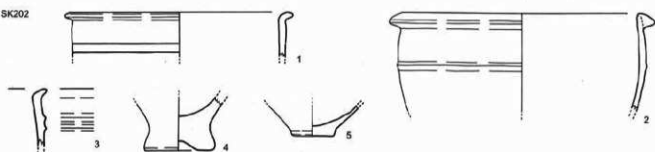


第44図 土壙 (SK193) 出土土器 (1/4)

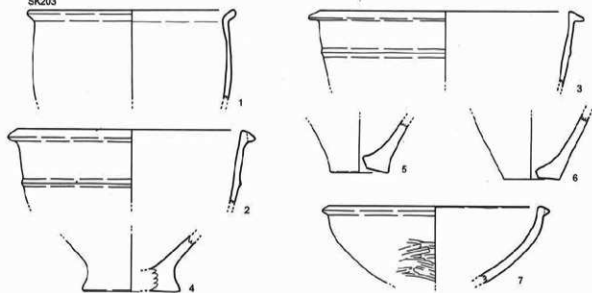


第45圖 土墳 (SK195、196、198) 出土土器 (1/4)

SK202



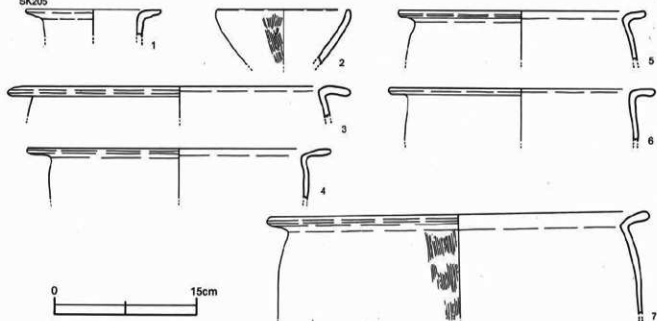
SK203



SK204



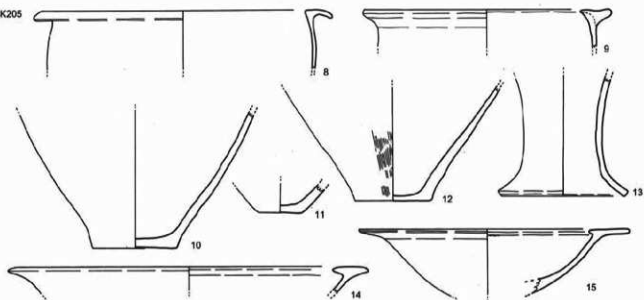
SK205



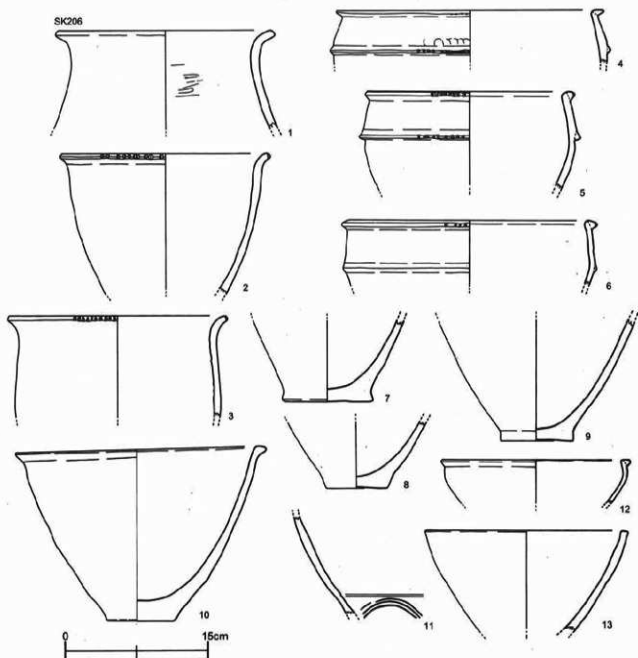
0 15cm

第46図 土壙 (SK202、203、204、205) 出土土器 (1/4)

SK205



SK206

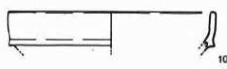
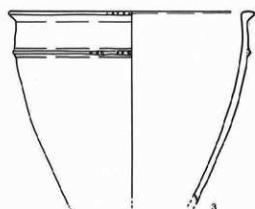


第47図 土坑 (SK205、206) 出土土器 (1/4)

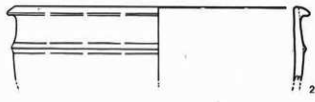
SK207



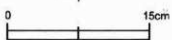
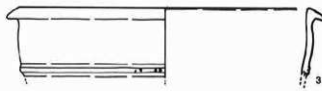
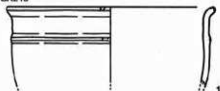
SK208



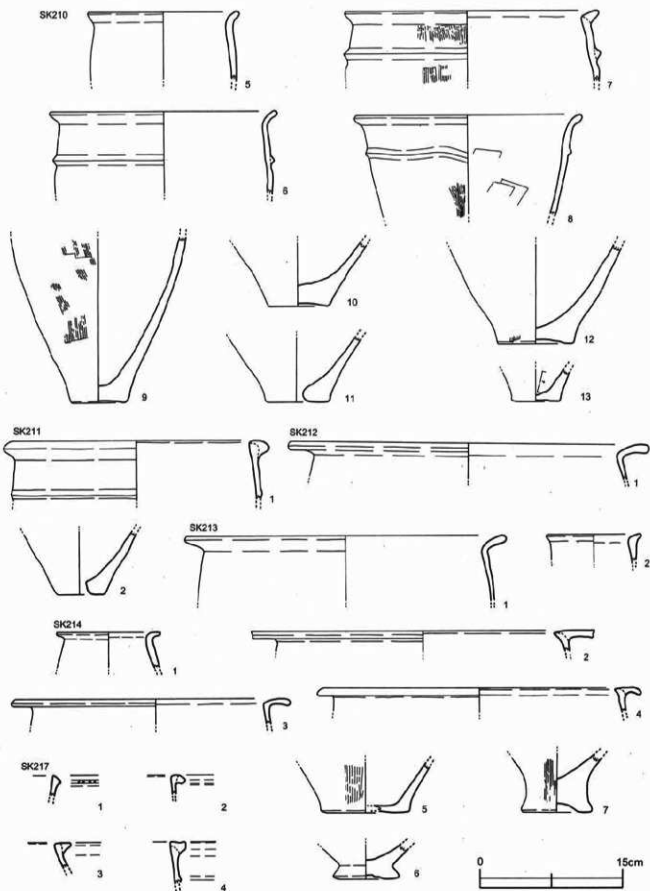
SK209



SK210

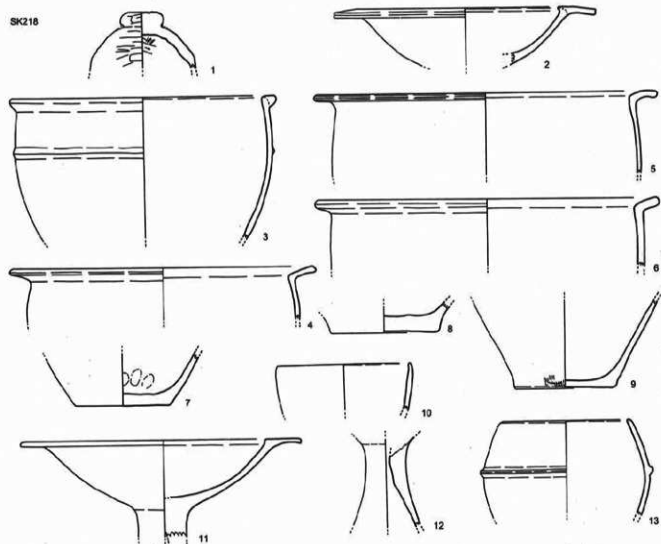


第48圖 土壙 (SK207、208、209、210) 出土土器 (1/4)



第49圖 土甕 (SK210、211、212、214、217) 出土土甕 (1/4)

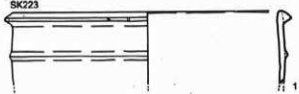
SK218



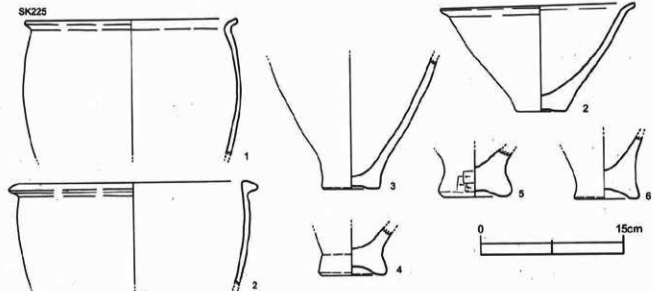
SK220



SK223



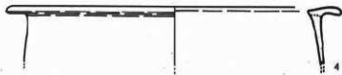
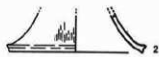
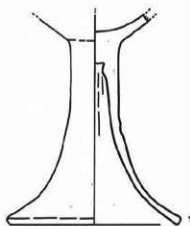
SK225



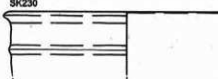
0 15cm

第50図 土甕 (SK218、220、223、225) 出土土器 (1/4)

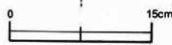
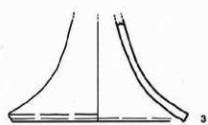
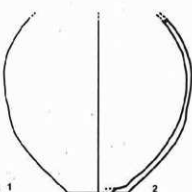
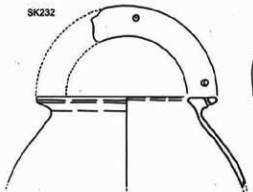
SK229



SK230

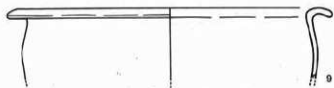


SK232

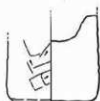


第51圖 土壙 (SK229、230、232) 出土土器 (1/4)

SK232



9



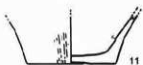
13



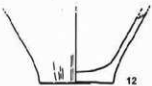
10



14



11



12

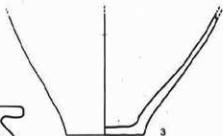


15

SK233



1



3

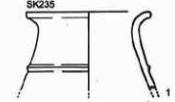


4



2

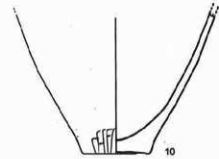
SK235



1



3



10



2



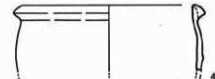
6



7



9



4



5



8



11

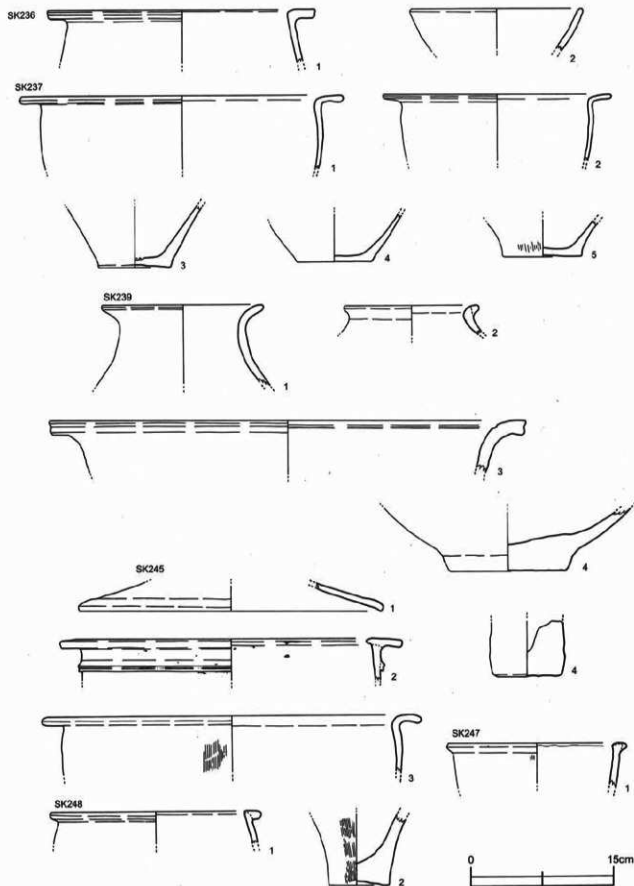


12



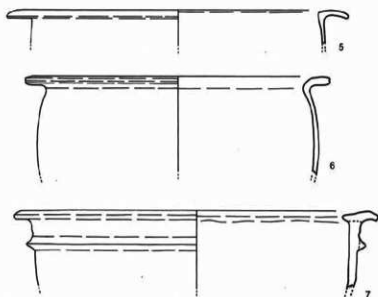
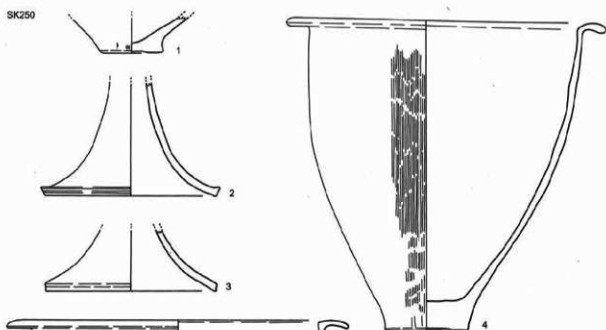
15cm

第52圖 土壙 (SK232、233、235) 出土土器 (1/4)

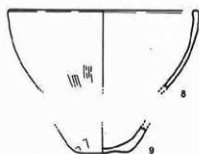
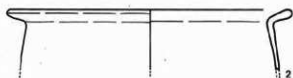


第53図 土壙 (SK236、237、239、245、248) 出土土器 (1/4)

SK250



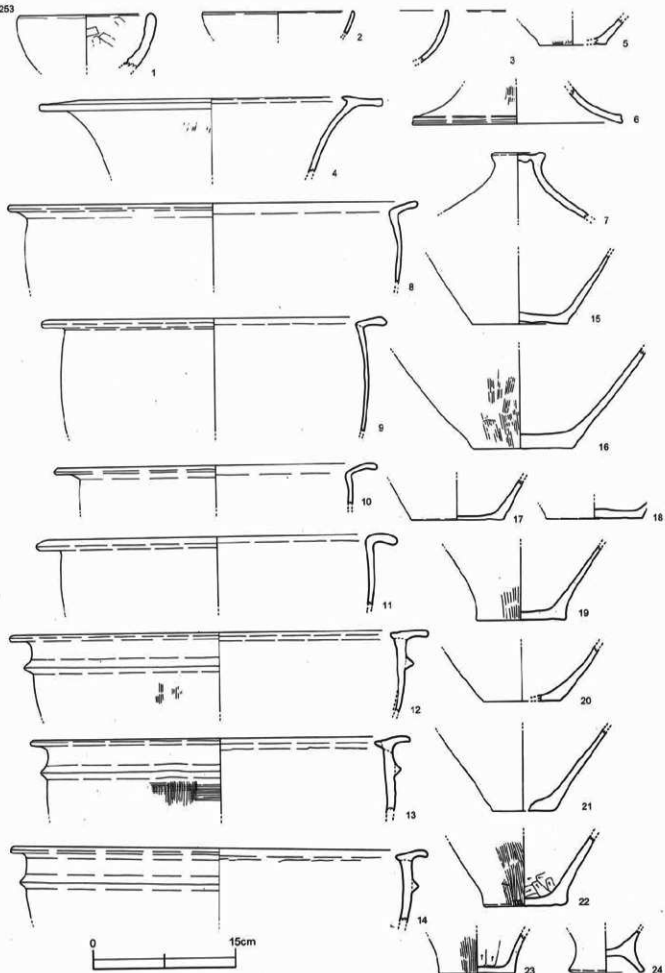
SK251



SK252

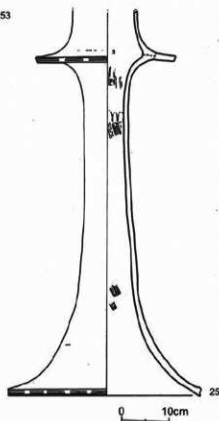


第54図 土壙 (SK250、251、252) 出土土器 [1/4]

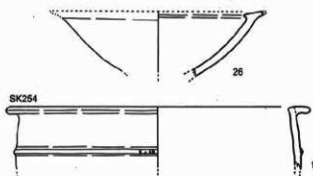


第55圖 土壙 (SK253) 出土土器 [1/4]

SK253



SK254



3



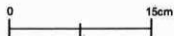
SK255



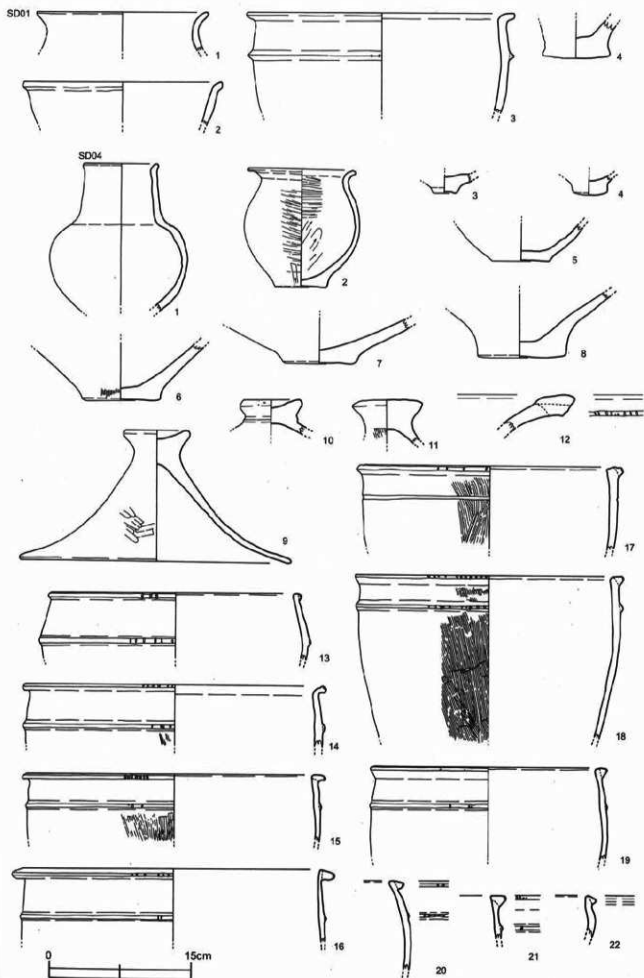
SK260



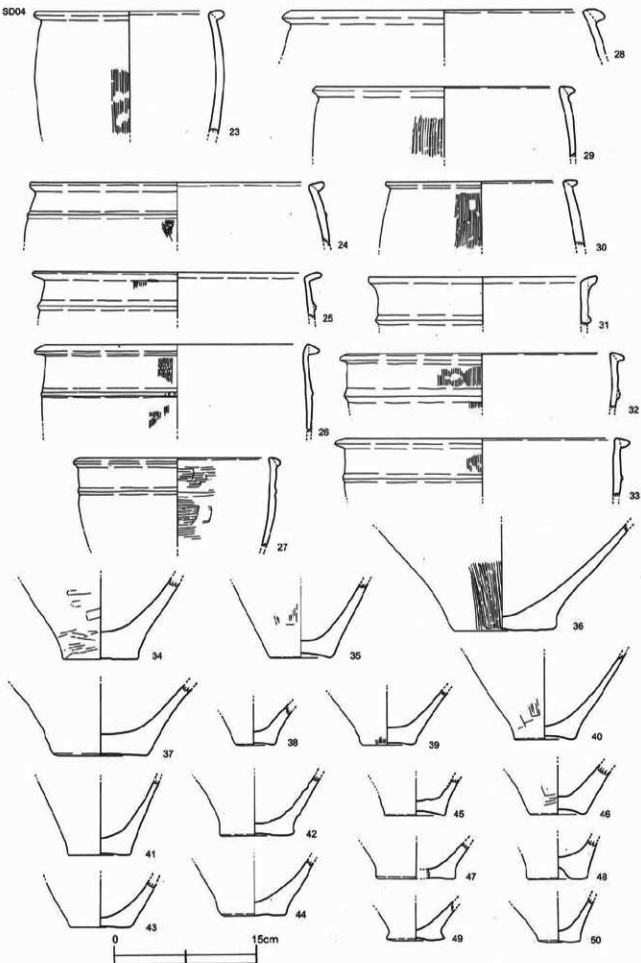
SK261



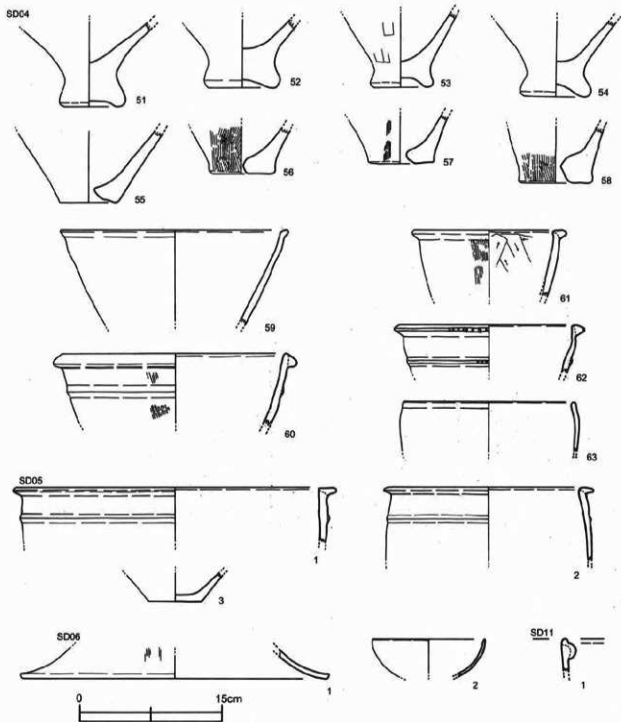
第56図 土壙 (SK253、254、255、260、261) 出土土器 [1/4]



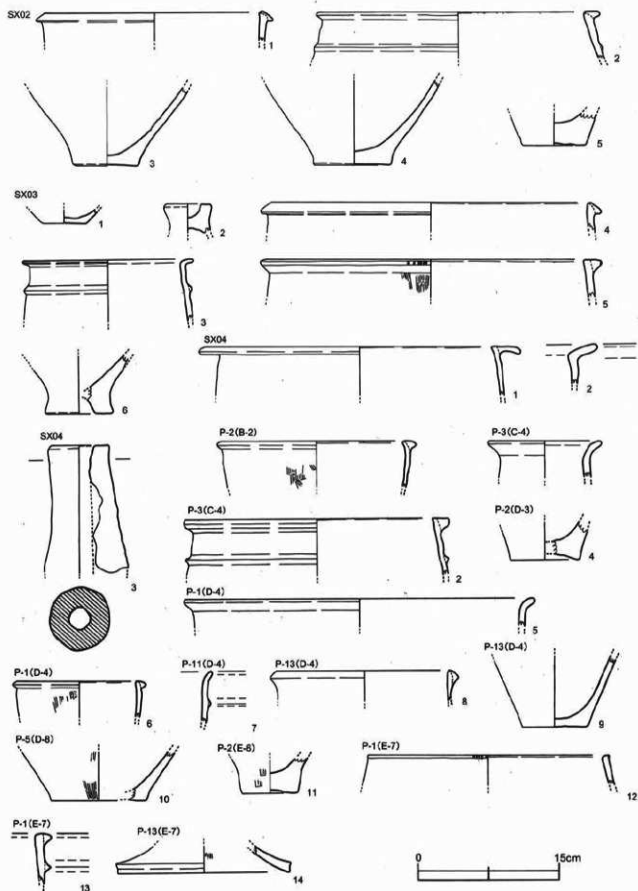
第57圖 溝 (SD01、04) 出土土器 (1/4)



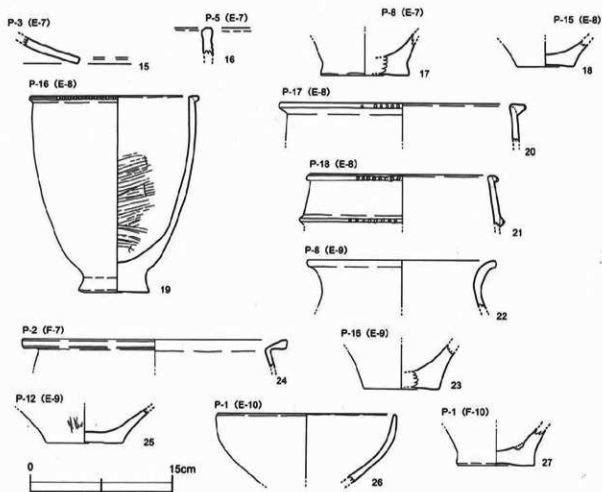
第58図 溝 (SD04) 出土土器 (1/4)



第59回 溝 (SD04、05、06、11) 出土土器 (1/4)



第60圖 不明遺溝 (SX02、03、04) 柱穴 (Pit) 出土土器 (1/4)



第61図 柱穴 (Pit) 出土土器 (1/4)

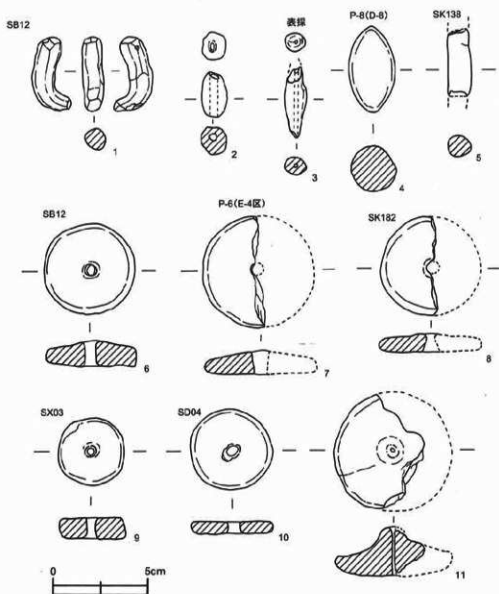
4 から 2 点出土した。(11) は直径 4.3 cm、厚さ 0.7 cm で薄いつくりで孔がある。(10) は直径 6.1 cm、厚さ 2.5 cm で中央部が高くつくられ細い孔がある。

石器

石器の発見は少なく堅穴住居、土壌、溝、柱穴から狩猟具や武器として石鏃、磨製石鏃、農工具として石斧、石のみ、砥石、石庖丁、紡錘車、石鏃、石皿、磨石が発見された。この他、大型のサヌカイト石核や、黒曜石片、サヌカイト片も多く発見されている。

石鏃 (第 63 図)

66 点の石鏃と石鏃未製品が発見された。66 点中サヌカイト製 52 点、黒曜石製 14 点で圧倒的にサヌカイト製が多い。形態も三角型のものが多く、1 点のみ茎を有する石鏃と、石槍状の石鏃 2 点、四方に挟りがある石鏃 1 点がある。



第62图 竖穴住居 (SB12)、表探、柱穴 (Pit) 土坑 (SK138、182)
溝 (SD04) 不明遺溝 (SX138) 出土土製品 [1/2]

石斧（第64図）

太型蛤刃石斧（1-5.7）

太型蛤刃石斧6点、未製品1点が発見されている。製品の多くは刃部の一部か、欠損している。いずれも、安山岩製である。

扁平石斧（6）

扁平石斧未製品で、砂岩で作られている。

石のみ（8）

石のみで、砂岩で作られている。

石庖丁（9-14）

6点出土している。12、13は製品で石庖丁の一部か半分が残り、2個の穿孔がある。9、10、11、14は未製品である。11、14は粘板岩製、その他は薄いつくりで地元で多く採集される片岩製である。

砥石（第66図）

14点出土している。大きさもさまざまで、形は方形、長方形、三角形があり、長方形が多く、すべて欠損している。大型のものは長さ15cm以上、幅6-10cm前後、小型のものは長さ3cm以上、幅2.5cm前後で、3面から4面が砥石として使用されている。いずれも砂岩製である。

紡錘車（第67図1、2）SB11から出土した。直径4.5cm、厚さ0.4cmと薄い作りで、中央部に直径0.7cmの穿孔があり片岩製。SK182から出土した。直径4.0cm、厚さ0.4cmで未製品でサヌカイト製。

石皿（第48図）

形は円形、楕円形、長方形があり完形品は少ない。石の表面は平坦かやや凹面になり、研磨の痕跡が残る。安山岩製が大半であるが、砂岩製も1点のみ混じる。

磨石（第69図～第72図）

多量に出土している。大きささまざまで、円形のものが多く、安山岩製が大半である。

2. 歴史時代以降の遺構と遺物

溝 SD (第4図)

SD01 調査区の北東側から南西側にかけて検出された。幅はほとんど同じで、1m前後、深さは0.3m前後である。遺物は黒曜石の剥片以外出土していないが、土師器の小片が発見されている所から、歴史時代の溝と考えられる。

SD02 調査区の北から南にかけて検出された近世の溝である。

SD03 調査区の北東から南西にかけて検出された近世の小溝である。

SD05 調査区の北側に東側から西側にかけて60m検出された。幅は0.5mから1m、深さは0.3m前後で西側が広くなる。遺物は黒曜石片、磨石4、石皿以外出土していないが、土師器の小片が発見されている所から、歴史時代の溝と考えられる。

SD06 調査区の東から西にかけて24m検出された。幅1m前後で浅い溝である。石鏃(黒曜石)1、石鏃未製品(サヌカイト)1が出土している。

SD07 調査区の北西端から10m検出された幅0.5mの近世の小溝で、北東から南西に流れる。

SD08 調査区の北西端から16m検出された幅0.5mの小溝で、SD07と並行に北東から南西に流れる。

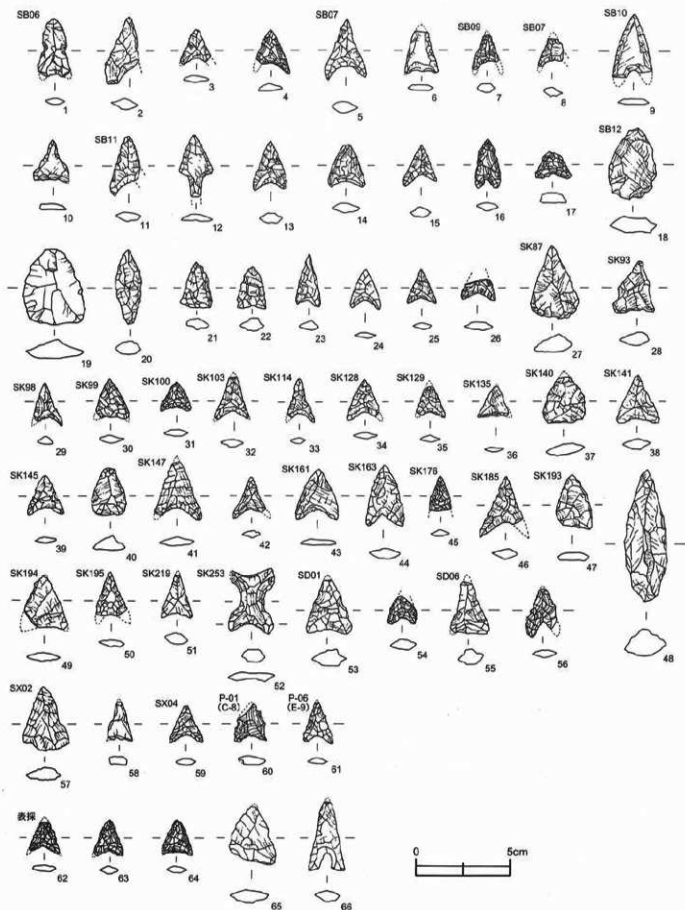
SD09 調査区の東側を南北に14m検出された。幅は0.3mで、北東から南西にかけてほとんど同じである。遺物は黒曜石の剥片以外出土していないが、土師器の小片が発見されている所から、歴史時代の溝と考えられる。

SD10 北西隅に北東から南西にかけて長さ10m、幅1.5mから2.0mが検出された近世の溝である。石鏃(黒曜石)1、扁平石斧未製品1(砂岩)が出土している。

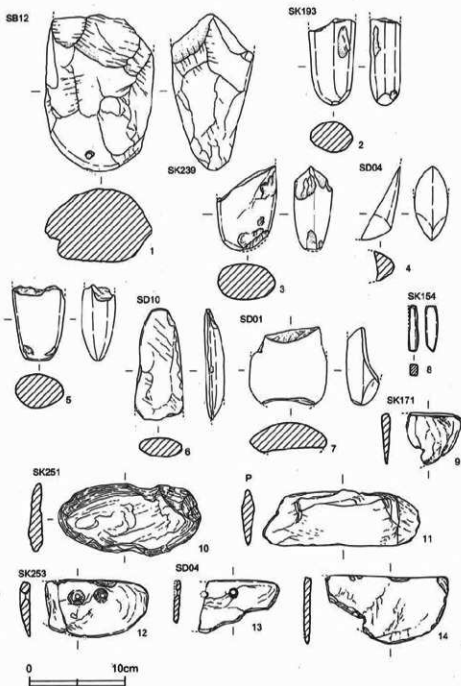
SD11 調査区の東西を走る幅1mの溝で、現代の水路によって大きく攪乱を受けている。

井戸(SE)(第4図)

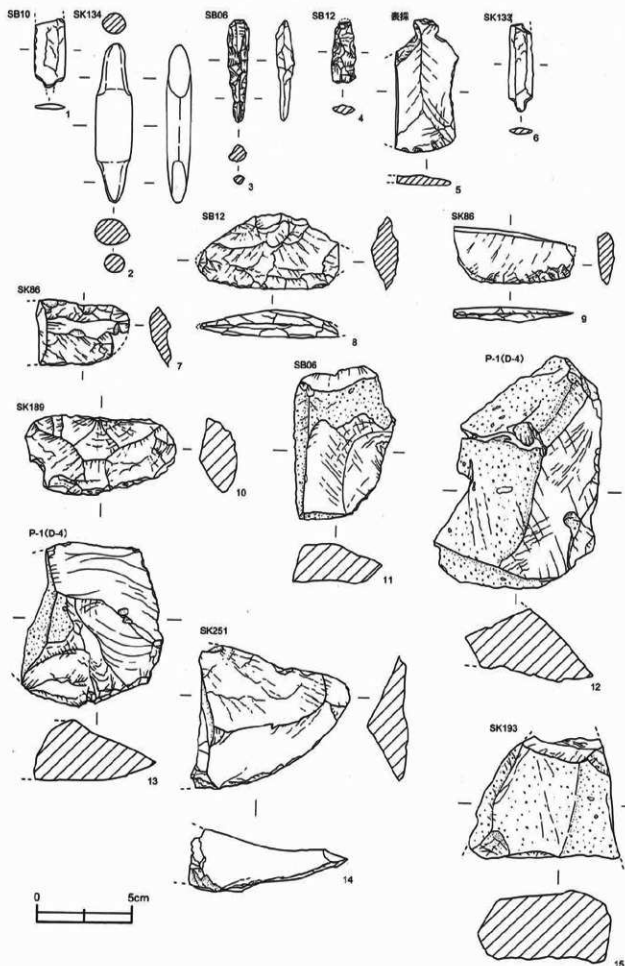
調査区の西端より1基のみ検出された。直径1.15-1.40mでほぼ円形の素掘の井戸である。深さは0.58mでほぼ垂直に掘削されている。遺物として高台付碗が出土しており、平安期のものと考えられる。



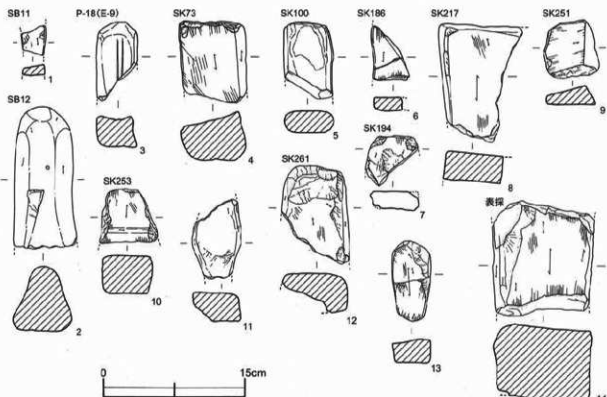
第63圖 豎穴住居 (SB06, 07, 09, 10, 11, 12)、土壙 (SK87, 93, 98, 99, 100, 103, 114, 128, 129, 135, 140, 141, 145, 147, 161, 163, 176, 185, 193, 194, 195, 219, 253)、溝 (SD01, 06)、不明遺溝 (SX02, 04)、柱穴 (Pit) 表探 出土石器 [1/2]



第64圖 竪穴住居 (SB12)、土坑 (SK154、171、193、239、251、253)、溝、(SD01、04、10) 出土石器 [1/4]

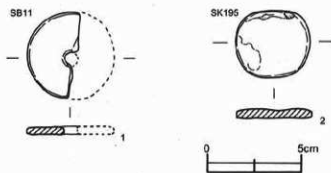


第65図 竪穴住居 (SB06、10、12)、表探、柱穴 (Pit)
土塊、(SK86、113、134、198、193、251) 出土石器 (1/2)

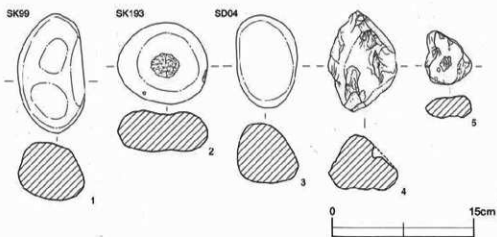


第66図 竪穴住居 (SB11、12)、柱穴 (P i t)

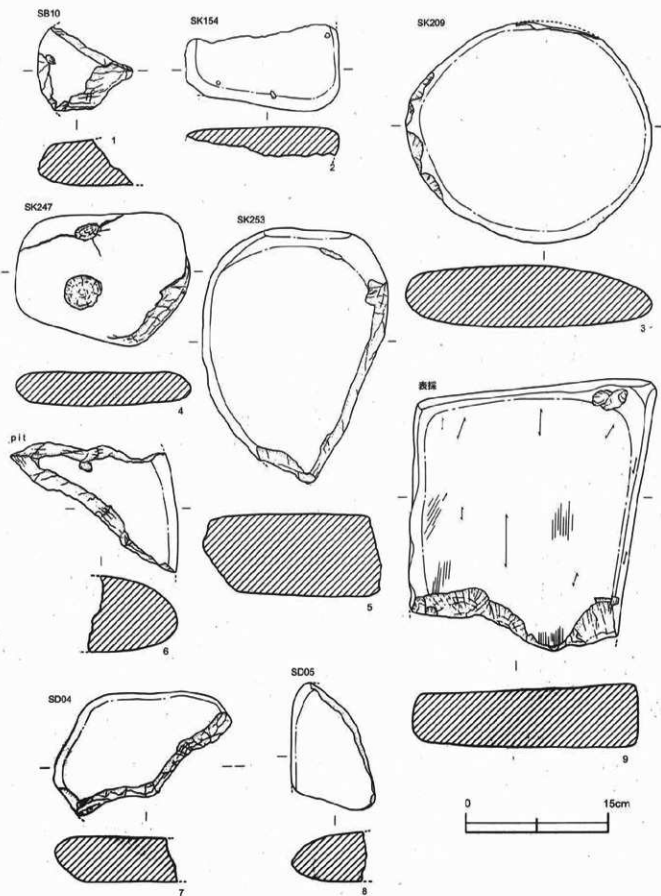
土壙 (SK73、100、186、194、217、253、261) 表探 出土石器 (礧石) (1/4)



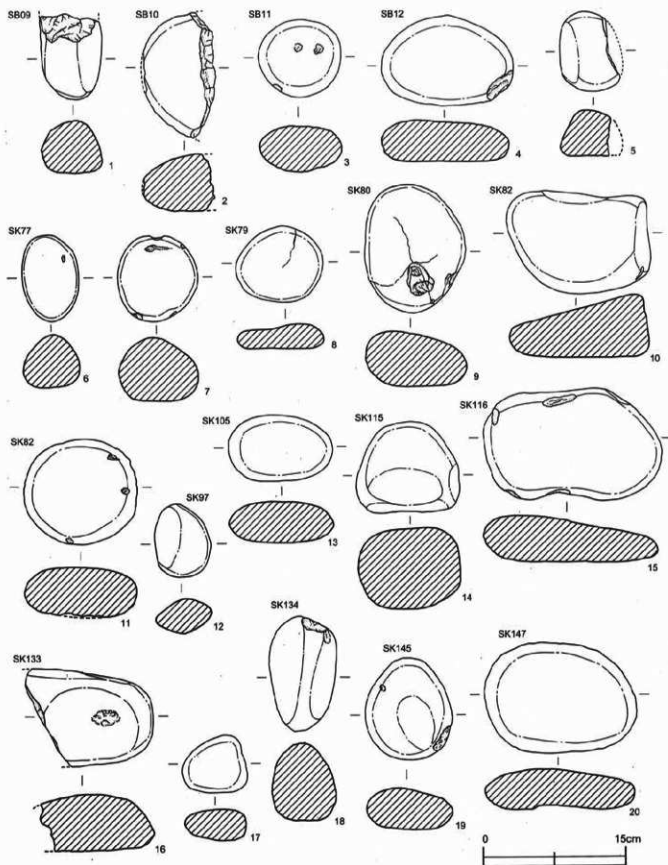
第67図 竪穴住居 (SB11)、土壙 (SK195) 出土石器 (1/2)



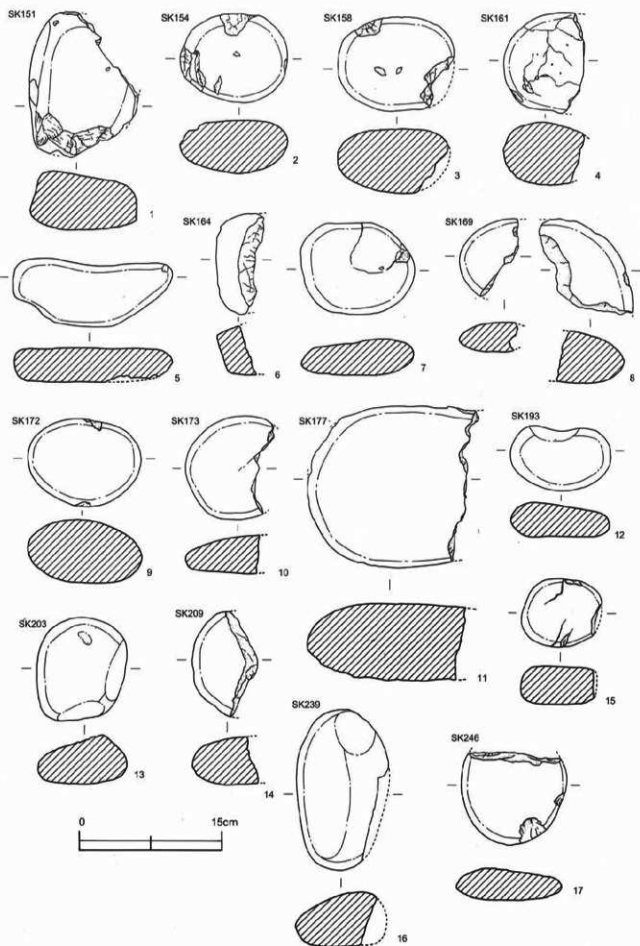
第68図 土壙 (SK99) 溝 (SD04) 出土石器 (磨石・礧石) (1/4)



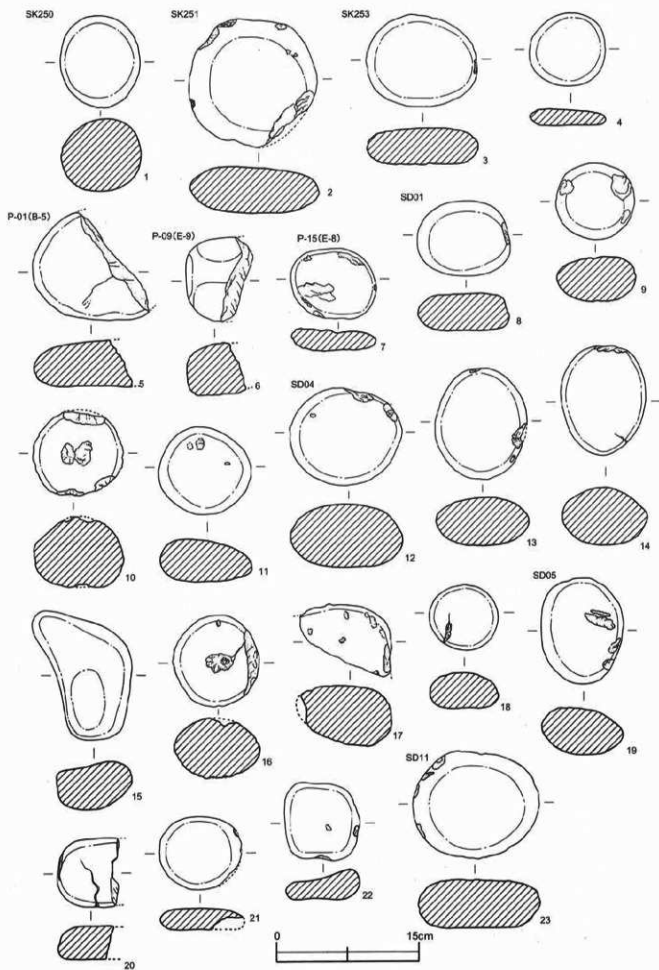
第69圖 竪穴住居 (SB10)、土坑 (SK154、209、247、253)、溝 (SD04、05) 出土石器 (1/4)



第70図 竪穴住居 (SB)、土壙 (SK) 出土石器 (1/4)



第71図 土壙 (SK) 出土石器 [1/4]



第72図 土坑 (SK) 不明遺構 (SX) 柱穴 (Pit)、溝 (SD) 出土石器 (1/4)

4. まとめ

遺 構

一竿遺跡第1次調査、第2次調査によって発見された遺構は弥生時代を中心にして歴史時代に及んでいる。ここでは中心となる弥生時代の遺構と遺物をまとめてみたい。弥生時代の遺構として堅穴住居9軒、掘立柱建物3棟、土壌260基、溝2条が発見されている。

堅穴住居は円形堅穴住居7軒と方形堅穴住居の2軒が、調査区のほぼ中央に集中して発見された。

円形の堅穴住居は規模から大きく3つに分類できる。

直径10m前後 (SB06)

直径 7m前後 (SB07・SB09・SB10・SB11・SB12)

直径 5m前後 (SB08)

堅穴住居内の柱穴から円形堅穴住居の棟方向を推定してみると北東-南西 (SB06・SB08・SB12) 北東-南西 (SB06・SB08・SB12) 東 - 西 (SB11) で切り合いも無く、また、間隔がほぼ15m前後の位置にあり、また、床面の構造も共通する点が多く、中央部に円形又は楕円形の浅い土壌を有し、土壌を中心に柱穴が配置されている。このことなどから、同時期に存在した可能性もある。

2棟の方形堅穴住居はやや歪な形の長方形で、いずれも床面には柱穴等はない。棟方向を推定してみると南-北 (SB01)、東-西 (SB04) であり同時に存在したかは不明である。

掘立柱建物は円形堅穴住居の北西側に3棟存在するが、調査区の東側にも延びる可能性も強い。3棟の主軸方向は北東-南西、規模も同じ桁行3.5m前後、梁行3.0m前後で等間隔に存在する所から同時期に存在した高床倉庫と考えられる。

八女市内におけるこれまでの発掘調査によって、弥生時代の円形堅穴住居が各所で発見されており調査の遺跡を列挙してみると、

室岡・山ノ上遺跡	八女市大字室岡字山ノ上	円形堅穴住居3棟
室岡・北小路遺跡	八女市大字室岡字北小路	円形堅穴住居4棟
立野・大坪遺跡	八女市大字立野字大坪	円形堅穴住居5棟
瀬町遺跡 1区	八女市大字柳瀬字松本	円形堅穴住居1棟
篠原遺跡	八女市大字国武字篠原	円形堅穴住居1棟
宿町遺跡	八女市大字緒玉字宿町	円形堅穴住居12棟以上
島田遺跡	八女市大字酒井田字島田	円形堅穴住居2棟
赤氏遺跡	八女市大字納楚字赤氏	円形堅穴住居2棟
平田・野内遺跡	八女市大字平田字野内	円形堅穴住居1棟
高野町遺跡	八女市大字祈祷院字高野町	円形堅穴住居6棟

の10ヶ所があり、ほぼ八女地域の全域に円形堅穴住居が分布している。

土壌は1次調査、第2次調査で計260基発見されている。形態も大きさも様々で用途については不明な点が多い。平面形の形態によって分類してみると大きく3種類に分類できる。

方形・隅丸方形・長方形・隅丸長方形は全体のほぼ76%を占める。中でも大型の土壌は長さ4m前後で、長方形を呈し幅の狭いものが多く遺物の出土が多い。Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類の土器を出土する。Ⅱ類・Ⅲ類の土器を出土する土壌は比較的堅穴住居に隣接するか近い場所に作られており、土壌の主軸もほぼ堅穴住居と同方向となる。Ⅳ類の土器を出土する土壌は幅が広くなり堅穴住居の周辺に多い。

円形・楕円形は全体のほぼ15%で小型のものが多く、遺物の量は少ない。Ⅱ類・Ⅲ類の土器を出土するものが多いが、Ⅰ類の土器を出土する土壌もわずかに存在する。

不整形は全体のほぼ9%で小型のものが多く、遺物の量も少ない。

出土遺物

土器

出土した土器は多量にあり、その多くは土壌からの出土が多い。出土品の中心はいわゆる「亀ノ甲式土器」と呼ばれる土器で甕形土器に大きな特色を見せるため、甕形土器を中心にⅠ類からⅣ類に分類してみた。

Ⅰ類は「亀ノ甲式土器」の中でも最も古いタイプと考えられる一群で、甕形土器や深鉢型土器とも見れる。土器の量は少ないが胴部が「く」の字状に折れ、口縁部の上端外面や胴部に小さな粘土帯を貼り、大型で粗い刻目を施している。底部は円盤貼り付けで、同時に如意状口縁を持つものもあるなど、全体的に古い様相を持った一群である。

Ⅱ類は甕形土器が中心となり、いわゆる従来の「亀ノ甲式土器」タイプと呼ばれている一群である。全体に砲弾型を呈し、口縁部は直立し口縁部外側に粘土帯を貼り付け、刻みを施している。口縁部下に突帯を持つものと持たないものや、如意状口縁を持つものもあるなど、バラエティに富み土器の量も多くなる。

Ⅲ類はⅡ類の発展した形で、口縁部外側に肥厚した粘土帯を貼り付け、刻み目の無いものが多い。口縁部下に突帯を持つものと持たないものや、形骸化した粘土帯を貼り付けるものがあり土器の量も多い。

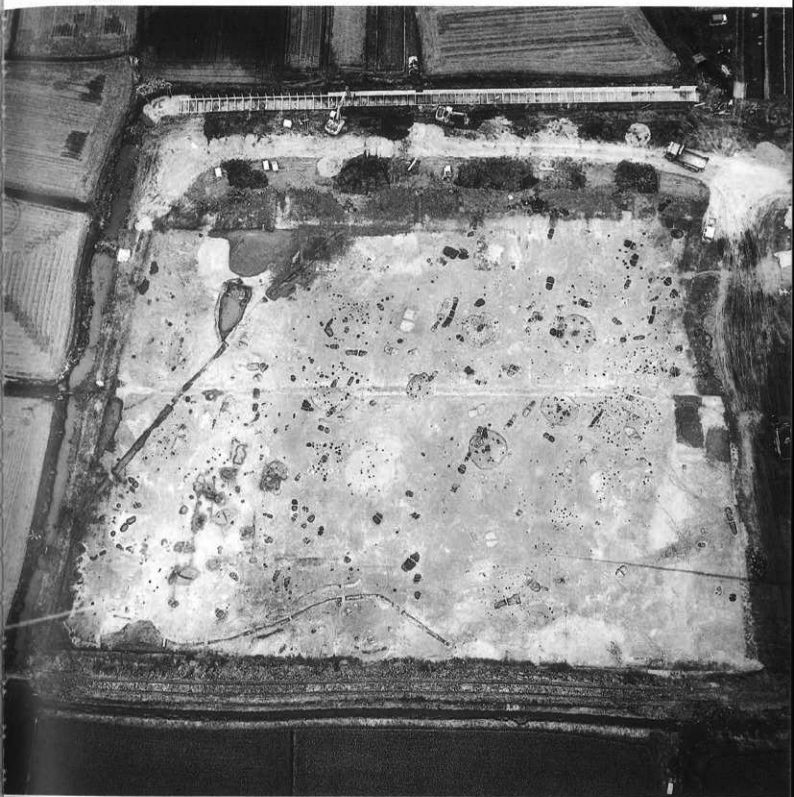
Ⅳ類は口縁部が「L字状」、「T字状」となるタイプで甕形土器や壺型土器のほか高杯や器台が多く出現し、器種が多くなる。この時期に丹塗磨研土器も多い。

土器を中心にⅠ類からⅣ類に分類したが、Ⅰ類は従来の「亀ノ甲式土器」と呼ばれている一群より縄文的な様相を持つ土器が多く、平成8年度に実施した立野・大坪遺跡環濠下層や土壌からも同タイプの土器が出土しており、板付Ⅰ式土器の古相と併行する時期まで遡る可能性がある。Ⅱ類は従来の「亀ノ甲式土器」タイプの範疇に入るものである。Ⅲ類は「亀ノ甲式土器」の発展した形態で、突帯の刻目が消えたり、形骸化した突帯の出現など新しい様相を見せている。Ⅳ類は「亀ノ甲式土器」から脱却した新しい形態の土器で「須玖式土器」の影響を大きく受けて成立したものと考えられる。以上の成果より、土器の併行関係を試みて見た。

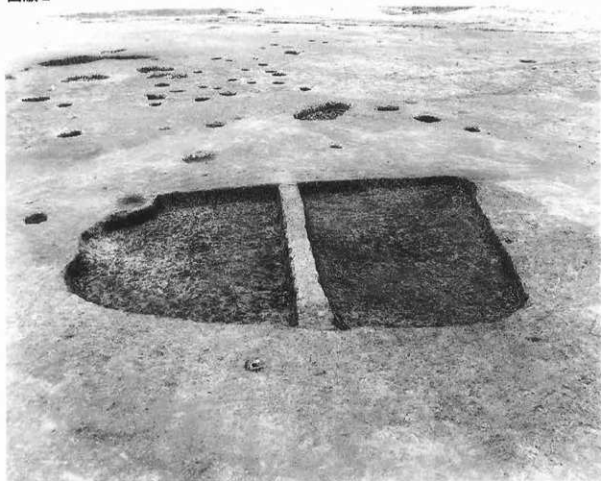
一竿遺跡出土土器併行関係表

一竿遺跡	八女地方	北部九州
一竿Ⅰ類		板付Ⅰ式
一竿Ⅱ類	高島Ⅰ類・熊野Ⅰ類	板付Ⅱ式
一竿Ⅲ類	高島Ⅱ類・熊野Ⅱ類	城ノ越式
一竿Ⅳ類	高島Ⅲ類・熊野Ⅲ類	須玖式

圖 版



1. 一竿遺跡全景（上空より）



1. 竖穴住居 (SB01)



2. 竖穴住居 (SB06)



1. 鑿穴住居 (SB07)



2. 鑿穴住居 (SB08)



1. 竖立柱建物 (SB09)



2. 竖穴住居 (SB10)



1. 竖穴住居 (SB11)



2. 竖穴住居 (SB12)



1. 掘立柱建物 (SB05)



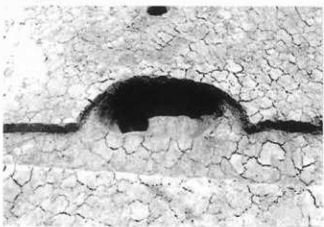
2. 楕円形周溝状遺構 (SX04)



1. SK61



2. SK62



3. SK63



4. SK64



5. SK65



6. SK66



7. SK67



8. SK68



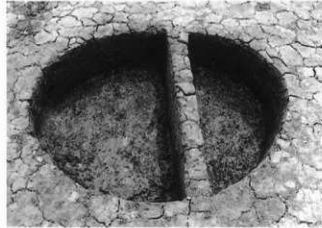
1. SK69



2. SK70



3. SK71



4. SK72



5. SK73



6. SK74



7. SK75



8. SK76



1. SK77



2. SK78



3. SK79



4. SK80



5. SK81



6. SK82



7. SK83



8. SK84



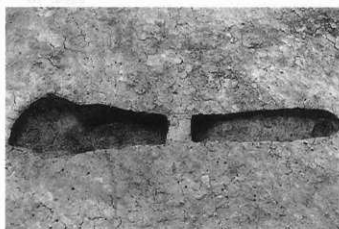
1. SK85



2. SK86



3. SK87



4. SK88



5. SK89



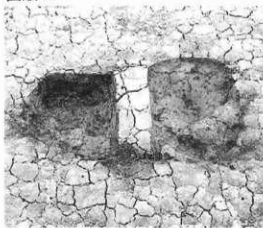
6. SK90



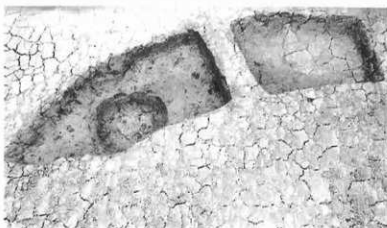
7. SK91



8. SK92



1. SK93



2. SK94



3. SK95



4. SK96



5. SK97



6. SK98



7. SK99



8. SK100



1. SK101



2. SK102



3. SK103



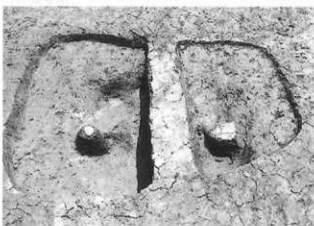
4. SK104



5. SK105



6. SK106



7. SK107



8. SK108



1. SK109



2. SK110



3. SK111



4. SK112



5. SK113・SK114



6. SK115



7. SK116



8. SK117



1. SK118



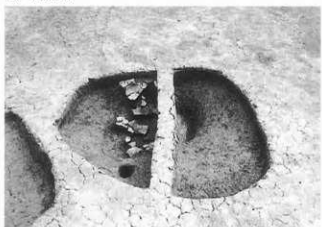
2. SK119



3. SK120



4. SK121



5. SK122



6. SK123



7. SK124



8. SK125



1. SK126



2. SK127 (IBSK31)



3. SK128



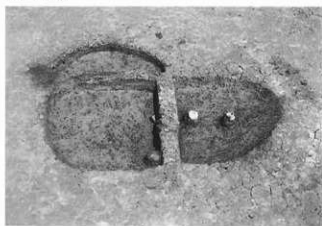
4. SK129



5. SK130



6. SK131



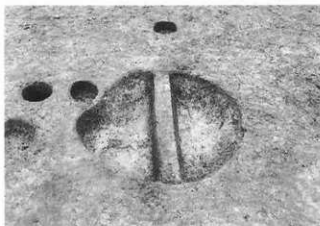
7. SK132 · SK155



8. SK133



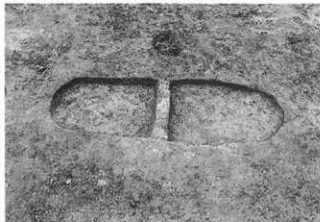
1. SK134



2. SK135



3. SK136



4. SK137



5. SK138



6. SK139



7. SK140・SK141



8. SK142



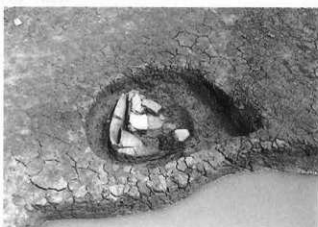
1. SK143・SK144



2. SK145



3. SK146



4. SK148



5. SK149



6. SK150



7. SK151・SK152



8. SK153



1. SK154



2. SK156



3. SK157



4. SK158



5. SK159



6. SK160



7. SK161



8. SK162



1. SK163



2. SK164



3. SK165



4. SK166



5. SK167



6. SK168



7. SK169



8. SK170



1. SK171



2. SK172



3. SK173



4. SK174



5. SK175



6. SK176



7. SK177



8. SK178



1. SK179



2. SK180



3. SK181



4. SK182



5. SK183



6. SK184



7. SK185・SK186



8. SK187



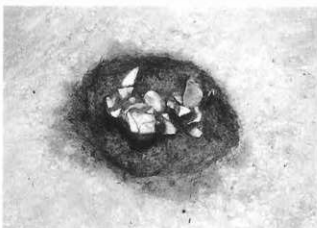
1. SK188



2. SK147 · SK189



3. SK190 · SK191



4. SK192



5. SK193



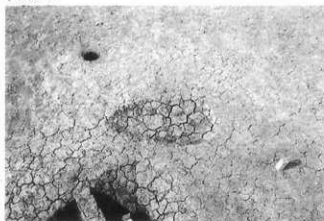
6. SK194



7. SK195



8. SK196



1. SK197



2. SK198



3. SK199



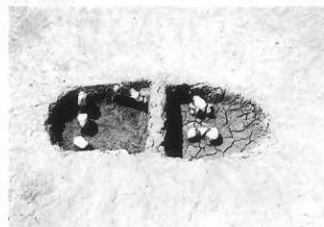
4. SK200



5. SK201



6. SK202



7. SK203



8. SK204



1. SK205



2. SK206



3. SK207



4. SK208



5. SK209



6. SK210



7. SK211



8. SK212



1. SK213



2. SK214



3. SK215



4. SK216



5. SK217



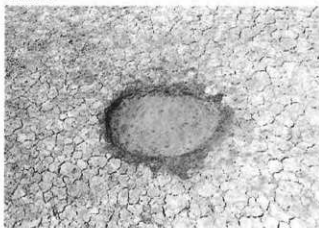
6. SK218



7. SK219



8. SK220



1. SK221



2. SK222



3. SK223



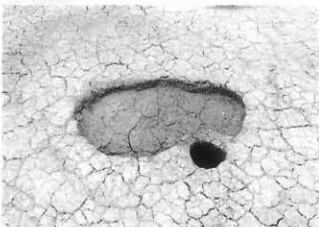
4. SK224



5. SK225



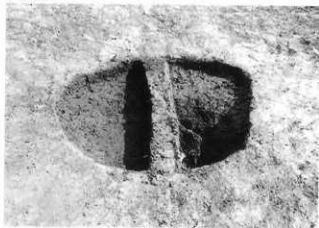
6. SK226



7. SK227



8. SK228



1. SK229



2. SK230



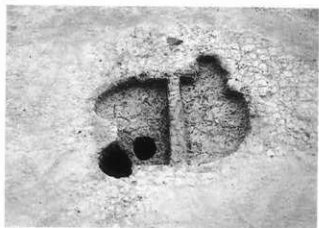
3. SK231



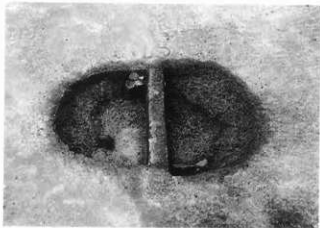
4. SK232



5. SK233



6. SK234



7. SK235



8. SK236



1. SK237



2. SK238



3. SK239



4. SK240



5. SK241



6. SK242



7. SK243



8. SK244



1. SK245



2. SK246



3. SK247



4. SK248



5. SK249



6. SK250



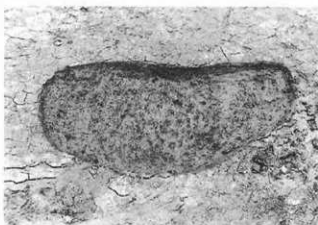
7. SK252



8. SK253



1. SK254



2. SK255



3. SK256



4. SK257



5. SK258



6. SK259



7. SK260



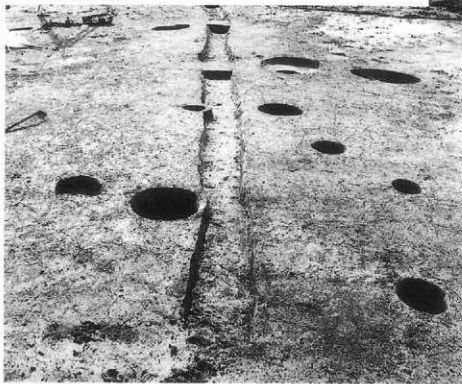
8. SK261



1. 溝 (SD04) 北より



2. 溝 (SD05) 西より



3. 溝 (SD07) 東より



4. 溝 (SD10) 西より

報告書抄録

ふりがな	ひとさおいせき							
書名	一 竿 遺 跡 Ⅱ							
稲書名	福岡県八女市大字立野字一竿・西田所在遺跡の第2次調査報告書							
巻次	第2分冊							
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 59 集							
編著者名	赤 崎 敏 男							
編集機関	八女市教育委員会							
所在地	834-8585 福岡県八女市大字本町647 TEL 0943-23-1111							
発行年月日	西暦 2000年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査面積
いちさお 一竿遺跡	ふくおかけん 福岡県 やめし たでの 八女市大字立野 いちさお にしだ 字一竿・西田	402109		33 12 20	130 32 50	1998 05 14 ～1998 11 13	10,000㎡	選果場建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
一 竿 遺 跡	集 落 跡	弥生時代 歴史時代	竪穴住居9(1) 掘立柱建物3(2) 土壇 260(60) 溝11(4) 井戸1 ()内は1次調査分		弥生式土器 石器			

一竿遺跡Ⅱ
八女市文化財調査報告書
第59集

平成12年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市大字本町647
印刷 (資)東兄弟印刷所
八女市祈祷院563